

中国農業労働者米國輸入法制定ノ可否調査ニ  
關スル決議案米國上院ニ提出ノ件

公第四二六号 (大正七年一月四日接受)

大正六年十二月七日

在米特命全權大使 佐藤 愛 磨 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

農事委員ヲシテ戰爭繼續中一定ノ制限及規則ノ下ニ支那人  
農夫ヲ合衆國ニ輸入許可方ニ關スル法律制定ノ可否ヲ調査  
セシメントスル決議案本日上院ニ提出セラレ直ニ農事及林  
業委員附託ト相成候ニ付右決議案二部相添此段及報告候

敬具

註 附屬書省略

一五五 十二月十九日

在桑港填原總領事ヨリ  
本野外務大臣宛

加州国防会東洋移民輸入ニ反对ノ件

公第五八〇号

(大正七年一月二十三日接受)

大正六年十二月十九日

在桑港總領事 埴 原 正 直 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

加州国防会支那人労働者輸入ニ反对ノ新聞記  
事ニ關スル件

本日当地発行ノ「クロニクル」紙ニ加州国防会ニ於テハ予  
テヨリ東洋移民輸入ノ議ニ反对シ居レル処昨日同会常務委  
員ハ当州当面ノ急務ナル明年農耕労働者不足救済方ニ關シ  
協議ノ為メ明年一月八日加州各地農業家代表者ヲ桑港ニ召  
集スヘク夫々通知ヲ發セリ同会々員ノ談ニ拠ルニ明年ニ於  
ケル労働者不足問題ヲ解決スルニアラズンハ收穫物ニ多大  
ノ損害ヲ免レザルベク同会ハ全力ヲ拵ケテ之カ救済ニ任セ  
ザルヘカラス忌憚ナク曰ヘハ同会ハ支那人労働者輸入ノ計  
画ニハ全然反对ナリ仮ニ之ヲ実行スルトスルモ第一船腹カ  
不足ニシテ現ニ連合國ニ供給スヘキ濠洲小麦ノ輸送スラ不  
可能ニシテ多量ノ穀類ハ倉庫内ニテ腐敗シツツアル位ニア  
ラズヤ其他凡ユル見地ヨリ考察スルモ東洋労働者ノ使用ハ  
願ハシカラサル事ナリ同会ハ労働者不足問題ニ關シテハ本  
年試ミタル所ヲ明年重ネテ行フヘク即チ一地方ノ收穫終ル  
ヲ俟ツテ其労働者ヲ他ノ地方ニ移シ又数千ノ中学生ヲ農園  
ニ使用スヘシ云々トノコトナリトノ記事有之為御參考此段  
及報告候 敬具

事項三 第四回日露協約締結關係一件

一五六 一月六日

在本邦露國大使館ヨリ  
日本国外務省宛

寛城子及老焼鍋間東支鐵道線路ノ評価額八千

万留ニ付詳細申越ノ件

(訳文) (註)

覚 書

九十七露里ノ距離ヲ有スル本件鐵道線路ノ価額ハ建築費  
(但シ線路修築費ヲ含ム) 竝東支鐵道ノ露國政府ニ対スル  
債務中本件区域間ノ距離ニ比例スル債務ヲ控除スルコトニ  
ヨリ露國国庫ニ及ホスヘキ欠損ヲ合シタルモノニシテ右合  
計額ニ加フルニ日露兩線ノ新接統点設置ノ為ニスル老焼鍋  
停車場改築費ヲ以テス右金額左ノ如シ

一、建築費 一二、六三六、七六七留三八哥

一、線路ノ距離ニ比例セル東清鐵道会社ノ負債

二八、二五七、二六七留一〇哥

一、老焼鍋停車場改築費 三、五〇〇、〇〇〇留

三 第四回日露協約締結關係一件 一五六

乃至四、〇〇〇、〇〇〇留

即チ寛城子老焼鍋間ノ線路讓渡ノ結果露國国庫ニ及ホス  
ヘキ直接ノ損失四千四百五十万乃至四千五百万留ノ額ニ  
達ス

同時ニ本件線路ノ需要ノ為讓与セラレタル土地ノ利用ヨリ  
生スル収入ヲ喪失スルモノナリ右収入トハ農業工業ノ目的ノ  
為ニスル土地ノ賃貸ニヨリ取得セラルルモノニシテ之ヲ年  
利三分ニテ還元スルトキハ此等附属地ノ買上価額ハ大約六  
百万留ニ達ス

讓渡ノ結果貨物輸送ノ減少ヨリ生スヘキ会社ノ損失ニ關シ  
テハ其ノ額ヲ算定スルニ当リ讓渡区域ノ直接収入ハ之ヲ考  
量ニ入ルヘカラサルコトヲ注意スルヲ要ス何トナレハ該区  
域線路ノ価額ノ支払ハ既ニ此項ノ損失ヲ償フモノナレハナ  
リ從テ該区域讓渡ノ結果爾後会社ノ所有トシテ残ルヘキ線  
路ニ対シ生スヘキ損失ノミヲ評価スルコト左ノ如シ

先ツ第一ニ東支線ノ諸停車場ヨリ輸送セラルル穀類數量ノ

減少ヲ示スルノ要アリ右減少ハ東支線ト滿鉄トノ接続地点カ北方ニ移動セラルコトニヨリ生スルモノトス之ヲ實際ニ徵スルニ東支線停車場カ滿鉄線終点ニ近接スレバスル程右東支線ノ停車場ニ蒐集セラルル穀類ノ量減少ス右ハ麥ノ購買カ滿鉄ノ代理人ニヨリ行ハレ而シテ滿鉄ハ生産者ニ対シ右穀類ハ之ヲ出来得ル限り日本停車場ニ向ケ直接ニ發送スヘキコトヲ要求スルノ事實ニヨリ説明セラレ、而シテ今回滿鉄ノ終点ハ九十七露里北方ニ移動セラルルヲ以テ其結果現在ノ情況ニヨレハ約千四百万封度ノ穀類ハ讓渡区間ノ北方ニ在ル地域ヨリ吸収セラレ日本線ニヨリ南方ニ輸送セラルヘク此ノ価額一封度ニ付十九哥半トシ総計二百七十三万留ノ収入損失ヲ来スヘキコトヲ計上スルヲ要ス線路讓渡並松花江ニ最モ近接セル地点マテ鐵道線路ヲ延長スルヨリ生スル他ノ結果ハ現ニ河流ニヨリ行ハレ且ツ該河流ヨリ東支線ニ移送セラレツツアル穀類輸送ノ一部ヲ日本線ニ吸収スルニアリ即チ Bodoune 及 Taidi 間ノ河川ノ上流ヨリ来リ南方ニ向フヘキ自然性ヲ有スル約十八万二千五百六十封度ノ穀類ハ今日迄毎年右ノ方法ニヨリ輸送セラレ居ルヲ以テ之ヲ一封度十六哥七十九トスルトキハ会社ハ

八万一千留ノ損失ヲ受クルコトナル次第ナリ斯ノ如クシテ南方ニ轉移セラルヘキ穀類ノ輸送量ニ相当スヘキ營業費ハ之ヲ上掲価額中ヨリ控除セサルヘカラルハ言フ俟タス上掲輸送量ニ比例シ現在ノ情況ニ基キ計算セラレタル右費用ハ百三十万二千留ニ達ス依テ露國線ノ現実ノ損失ハ左ノ如クナル次第ナリ

2,730,000 + 81,000 - 1,302,000 = 1,509,000 roubles.

右金額ヲ年利五分ニテ還元スルトキハ三千一万八千留ノ額ヲ得ヘク右金額ニ線路ノ価額四百万五十万乃至四千五百万留並鐵道附屬地ニ対スル六百万留ノ額ヲ加フルトキハ寬城子老燒鍋間東清鐵道線路ノ総価額約八千万留ヲ得

東京ニ於テ

千九百十六年十二月二十四日

千九百十七年一月六日

註 右ハ日本外務省ニ於テ作成シタル仮訳文ナリ

一五七 二月十四日

在露國內田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

露國政府ハ鐵道代價ヲ相当低減スル意向アル  
旨英國大使談話ノ件

第一三一号

二月十四日着任挨拶ノ為非公式ニ英國大使ニ面会シタル処同大使ハ鐵道讓渡問題ニ談及シタルニ依リ本使ハ本件ニ付テハ露國側ヨリ法外ノ價格ヲ申出デ行惱ノ状態ナリ当初該鐵道讓渡ノ意向ヲ洩ラシタル露國側ヨリ斯ノ如キ申出ニ接シタルハ意外トスル所ニシテ本野子爵ノ立場トシテ頗ル不愉快ニ感シ居ル所ナリト語リタルニ大使ハ頃日本件ニ関スル露國側ノ内意ヲ洩聞キタルカ露國政府ハ右代價ヲ著シク低減 (Considerable reduction) スルノ意向アル由ナリトテ本件ノ満足ナル解決ニ至ルヘキコトヲ確信スル旨ヲ述ヘタリ本使ハ実ハ若シ本案件ニシテ渋滞決セサルニ於テハ日露兩國ノ關係ニモ累ヲ及ホサンコトヲ虞レタルカ果シテ露國ノ内意斯ノ如ク幸ニ満足ノ解決ヲ見ルヲ得ハ兩國ノ幸ナリト申述置キタリ

一五八 二月二十五日

在露國內田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

露國外相ト会谈ノ際東支鐵道讓渡額ニ関シ再

考ヲ求メタル旨報告ノ件

第一六八号

三 第四回日露協約締結關係一件 一五八 一五九

往電第一五〇号ニ関シ二月二十五日外務大臣來訪ノ際同大臣ヨリ過日ノ謁見ハ満足ナリシヤト尋ネタルニ付至極満足セリ殊ニ陛下ニハ御自身ヨリ東支鐵道讓渡ノ事ニ言及アラセラレタリトテ当日御談話ノ趣ヲ述ヘ同大臣ニ於テモ速カニ解決スル様御尽力アリタシト勸説シタル処同大臣モ本使謁見後ノ拜謁ニ於テ陛下ヨリ右談話ノ趣ヲ承リタリ本件ハ格別ノ故障モナク其内ニ落着スヘシト答ヘタルニ付露國申出ノ金高ハ余リニ多額ナル旨ヲ述ヘ其再考ヲ求メ置ケリ露國ノ真意カ果シテ誠実ニ本件ノ解決ヲ望ミ居ルカ又ハ重砲ニ関スル其ノ要求ヲ貫徹セムカ為殊更ニ解決ヲ仄カシ居ルカハ判明セサルモ兎ニ角陛下ノ御詞モアリタルヲ機會ニ此際本件ノ交渉ヲ進捗セシメラルルコト得策ト信ス貴方ニ於ケル本件御交渉ノ經過本使心得迄ニ電報アリタシ

一五九 五月四日 閣議決定

東支鐵道南部枝線ノ一部讓渡及松花江航行權

問題ニ関スル露國ノ申出ニ対シ日本政府ノ回

答振決定ノ件

附記 日本外務省ヨリ在本邦露國大使館宛回答覽書案(一)(二)

在本邦露国大使ハ本国政府ノ訓令ニ拠リ客年十二月七日同月十八日及本年一月六日附覽書ヲ以テ東支鉄道南部支線及松花江航行権一部ノ讓渡問題解決ノ為帝國政府ト商議ヲ続行セムコトヲ求メ来リ右露国側讓渡ノ条件トシテ大要左記ノ提案ヲ為シタリ

第一、鉄道ニ関シテハ

一、露国ハ戦前ノ換算率ニヨリ日本貨ヲ以テ支払ハルヘキ露貨八千万留ヲ以テ寛城子松花江左岸間ノ東支鉄道ヲ帝國ニ讓渡スルコト

二、日露新聯絡点ト大連間ニ発着スル貨物ノ運賃ハ同連絡点ト浦塩斯德間ニ発着スル同種ノ貨物ノ運賃ヨリ低廉ナラサル様協定スルコト

三、両国鉄道ハ互ニ旅客又ハ貨物ノ吸收ヲ目的トスル競争ヲ避クルコト

四、将来露国カ滿洲ニ於ケル自国ノ勢力範囲内ニ税関制度ヲ設クル場合ニ日本国政府ハ之ニ異議ヲ唱ヘザルベク露国モ亦日本ニ対シ同様ノ義務ヲ負フベキコト

五、日露兩國政府ハ滿洲ニ於ケル相互ノ勢力範囲内ニ於テ相互ニ郵便業務ニ関スル各自ノ權利ヲ承認スル為協

テ日本ヨリ重砲其他ノ兵器彈藥ノ供給(一)露国公債二億円ノ応募ヲ希望シ尚ホ(二)滿洲ニ於ケル酒精ノ生産及販売ニ関スル露支協約ニ日本ノ賛同ヲ促シアリ別ニ前掲鉄道讓渡価額トシテ八千万留ヲ計上シタル内訳トシテ(一)建設費(二)会社ノ負債(三)鉄道附属地收入ノ喪失ヨリ生スル損失(四)貨物輸送ノ減少ヨリ生スル損失及(五)新聯絡設備費ヲ列挙シタリ

右覽書ヲ按スルニ露国政府ニ於テハ鉄道讓渡ノ報償トシテ日本ヨリ新ニ重砲其他兵器彈藥ノ供給ヲ受ケムコトヲ希望セルモ抑モ今回ノ鉄道讓渡ノ問題タルヤ元来帝國政府ノ提議ニ出テタルモノニ非ズ反テ主トシテ帝國政府既往ノ友好

的援助ニ対スル露国政府ノ報償ノ趣意ニ出デタルモノナルヲ以テ帝國政府トシテハ今回讓渡問題解決ニ当リ露国政府ヨリ報償の趣旨ヲ以テ兵器彈藥供給ノ要求ヲ受クヘキ筋合ニ非ズ從テ帝國政府ニ於テハ露国政府ニ回答スルニ当リ露国政府ノ希望スル重砲其他兵器彈藥ノ供給及公債ノ応募ニ関シ及ブ限り好意的考量ヲ加フルコトハ帝國ノ辞スル処ニ非ザルモ之ヲ以テ露国今回ノ讓与ニ対スル当然ノ報償ト解セラルルハ帝國政府ノ認容スル能ハザル旨ヲ明ニスルヲ以テ適當ナリト信ス將又前掲鉄道讓渡ノ条件トシテ列挙セル

定ヲ為スコト

第二、松花江航行権ニ関シテハ

一、露国ハ秀水站ノ上流ニ於ケル松花江航行権ヲ抛棄スルコト

二、日本国ハ嫩江河口下流ニ於ケル松花江航行権ヲ要求セザルコト

三、嫩江河口及秀水站間ノ航行ハ日露兩國均シク自由タルヘキコト

四、嫩江河口上流ニ於ケル日本ノ航行権ニ対シ支那政府ニ於テ抗議スルトキハ露国政府ハ右抗議ヲ支持セザルコト

五、嫩江河口下流並其会流ニ於ケル支那又ハ日支共同其他ノ航運業設立ニ対シ日本政府ハ直接間接補助ヲ与ヘザルコト

尚ホ右露国大使ノ覽書ニハ前記諸条件中郵便業務ニ関スル協定ハ之ヲ別個ノ公文交換ノ方法ニ讓リ自余ノ事項ニ付テハ上提ノ趣旨ヲ包含スル公表及秘密交換公文案ヲ具シ該案ニヨリ兩國間ニ取極ヲ了セムコトヲ提議シ同時ニ露国政府ハ(一)前記露国側ヨリ為スヘキ讓与ニ対スル補償ノ趣旨ヲ以

諸項中(一)兩國各自ノ勢力範囲内ニ於ケル税関制度設定ノ件及(二)郵便業務ノ専權互認ノ件ノ如キハ鉄道讓渡問題ト必然ノ關係ヲ有スルモノニ非ズ又(三)滿洲ニ於ケル酒精ノ生産及販売ニ関スル露支協約ニ帝國参加ノ件ニ至リテハ固ヨリ全然別種ノ問題ニ属スルヲ以テ此等諸条件中仮リニ兩國政府間ニ審議ヲ要スルモノアリトスルモ本件讓渡問題トハ之ヲ分離シテ他日ノ交渉ニ讓ルコトトシ今回ハ先ヅ鉄道讓渡及松花江航行権問題ト直接關係アル事項ニ付テノミ協議スルコト可然依テ帝國政府ニ於テハ其趣旨ニヨリ露国政府ニ回答スルコト適當ナリト思考ス

露国政府カ鉄道讓渡ノ条件トシテ提議セル事項中該讓渡問題ト直接關係アリト認メラルモノハ先ヅ(一)讓渡価額(二)運賃ノ協定及(三)競争禁止ノ三項ニシテ右ノ中運賃協定ニ関シテハ帝國政府ニ於テ露国政府ノ申出ニ応スルニ於テハ其結果將來東支鉄道ノ賃率ノ改定ニ伴ヒ南滿洲鉄道モ亦其賃率ヲ高下セザルベカラザルニ至リ不当ニ後者ノ自由ヲ束縛セラルルニ至ルノミナラズ今回設定セラルベキ新聯絡点ヨリ大連ニ至ルノ距離ハ同所ヨリ浦塩斯德ニ至ル距離ニ比シ約百露里ノ近距離ニアルヲ以テ本項露国ノ要求ハ到底我方ノ

応諾スル能ハザル所ナルモ一方南滿洲鉄道ニ於テモ固ヨリ東支鉄道ニ対シ故意ニ競争ノ態度ニ出ヅルノ意思ナキヲ以テ帝國政府ニ於テ露國政府ニ回答スルニ当リテハ叙上ノ事由ヲ説明スルト共ニ此際兩鉄道ノ和衷協同ヲ表明シ且本問題ニ関スル東支鉄道ノ杞憂ヲ除去セムカ為今後兩鉄道ハ互ニ他方ノ利益ヲ害スルヲ目的トスヘキ一切ノ行動ヲ避止スヘキ趣旨ノ協定ヲ為スハ南滿洲鉄道会社ニ於テ何等異議ナキ所ナル旨ヲ開陳スルコト妥当ナリト思考ス而シテ右協定ヲ為スニ於テハ競争避止ノ件ニ関シテモ均シク其ノ目的ヲ達スルコトトナルヘシ

讓渡セラルヘキ鉄道ノ価額ニ関シテハ露國政府ハ前述ノ如ク約八千万留ト算定シ戦前ニ於ケル露貨ノ換算率ヲ以テ之カ支払ヲ希望スルモ右価額算定ノ基礎タル項目及計數共ニ失当ニシテ認容シ難キモノアリ他ノ一方ニ於テ南滿洲鉄道会社ノ調査ニ依レハ一千万円内外ヲ以テ妥当ナル評価トスヘキカ如シト雖此ノ価額ハ全ク商事会社タル同社ノ見地ヨリ算定セルモノニシテ鉄道ノ讓渡ハ別ニ軍事上及政治上重要ナル価値アルコトヲ認メザルヲ得ズ此等各方面ヨリ觀察スルニ大体二千五百万円以内ニ於テ価額ヲ協定スルコトヲ

燒鍋間鉄道ヲ帝國政府又ハ南滿洲鉄道会社ニ讓渡スヘキコト及松花江上流ノ一部ニ於テ露國ノ航行權ヲ拋棄シ他ノ一部ニ於テ日本ノ航行權ヲ承認スヘキコトヲ提供セラレタリト下同時ニ露國政府ハ前記讓与ニ対シ報償ノ趣意ヲ以テ重砲其ノ他兵器彈藥ノ供給及露國公債ノ応募ヲ求メラレ併テ滿洲ニ於ケル酒精ノ生産及販売ニ関スル露支協約ニ付帝國政府ノ参加ヲ促サレタリ

帝國政府ハ先ツ本件讓与問題ノ根源ニ関シ自己ノ地位ヲ明ニセムトス

元來東支鉄道南部支線讓渡ノ問題ハ帝國政府ノ提議ニ出デタルモノニ非ズ既ニ千九百十四年中露國政府ノ発案ニ依リ次テ客年一月ヨルジュ、ミハイロウイツチ太公殿下ノ日本帝室ヲ訪問セラレタルニ當リ露國政府ハ帝國カ今次ノ戰爭開始以來露國ニ供与シタル友好的援助ニ対シ謝意ヲ表セラルルト共ニ尚ホ小銃及彈藥若干ノ供給ヲ求メラレ之ガ報償トシテ右鉄道讓渡ノ内意ヲ暗示セラレタリ帝國政府ハ若シ露國ニシテ帝國既往ノ協力ニ対スル認識ノ徵証トシテ前記鉄道ヲ讓渡セラルルニ於テハ尚及フ限り小銃及彈藥ノ供給ニ対スル露國ノ希望ニ応ズルコトニ決定シ客年二月在露

得バ本件鉄道ノ讓渡ハ帝國ノ為ニ有利ナリト認ム從テ帝國政府ハ讓渡価額ニ関シ露國政府ノ再考ヲ促カシ前記金二千五百万円ヲ超過セサル範囲内ニ於テ讓渡価額ヲ適宜協議決定スルコトトシ右金額ハ国庫ヨリ支出ノ上南滿洲鉄道会社ニ対スル帝國政府ノ出資トシテ全讓受財産ヲ同会社ニ交付スルコトト致度シ

松花江航行權問題ニ関スル露國政府ノ提議ハ全部之ヲ承認シテ可ナルモノト思考ス

(附記)

日本外務省ヨリ露國大使館宛覚書案(一)

(一)

東支鉄道南部支線一部讓渡問題ノ発端及報償条件ニ関スル件

覚書案

帝國政府ハ露國大使閣下カ東支鉄道南部支線一部ノ讓渡及松花江航行權問題ニ関シ外務大臣ニ手交セラレタル客年十二月七日、<sup>(註1)</sup>同月十八日及本年一月六日附覚書ヲ閱悉シ篤ト考量ヲ加ヘタリ

露國政府ハ日露兩國カ滿洲ニ於ケル各自ノ勢力範囲ヲ相互ニ侵犯セズトノ一般原則ニ基キ一定ノ条件ヲ以テ寛城子老大使ヲシテ其ノ意ヲ露國政府ニ内告セシメタリ爾來露都ニ於テ商議ヲ重ネタル結果露國外務大臣ハ四月五日附覚書ヲ以テ寛城子松花江間鉄道ノ讓渡及松花江航行權ノ承認ヲ言明セラレタリ

以上ノ事実ニ徴スルトキハ露國政府今回ノ讓与ハ主トシテ帝國政府既往ノ友好的援助ニ対スル報償ノ趣意ニ出デタルモノニシテ鉄道ノ讓渡ハ相当代償ヲ以テスヘキ諒解アリタルコト云フヲ俟タザルモ若シ此ノ以外ニ露國ノ期待セラレタル報償アリトセハ唯ヨルジュ、ミハイロウイツチ太公殿下來航ノ際求メラレタル小銃及彈藥若干ノ供給ニ過キザルヘク然ルニ右軍需品ノ供給ハ帝國政府カ及フ限り之ヲ引受クヘキコトヲ明言セル所ニシテ現ニ露國外務大臣ハ帝國大使トノ累次ノ商議ニ於テ何等特殊ノ報償問題ニ言及セラレタルコトアラズ從テ露國政府ガ今日ニ至リ新ニ重砲ノ供給公債ノ応募等重大ナル報償ヲ求メラレ且讓与ニ煩雜ナル条件ヲ附セラレタルハ本問題ノ起源及經過ト一致セザル所アリ帝國政府ハ深ク意外ノ感ヲ禁ズルコト能ハズ

尤モ帝國政府ハ露國政府ノ希望セラルル重砲其他兵器彈藥ノ供給及公債ノ応募ニ関シテモ及フ限り好意的考量ヲ加フ

ルコトヲ辞スルモノニ非ズト雖モ之ヲ以テ露國ノ讓与ニ對スル当然ノ報償ト解セラルルハ帝國政府ノ否認セザルヲ得ザル所ナリ

將又鐵道讓渡ノ条件トシテ開列セラレタル諸項中(一)兩國各自ノ勢力範圍内ニ於ケル税関制度設定ノ件及(二)同範圍ニ於ケル郵便業務ノ專權互認ノ件ノ如キハ鐵道讓渡問題ト必然ノ關係ヲ有スルモノニ非ズ又帝國政府カ滿洲ニ於ケル酒精ノ生産及販売ニ関スル露支協約ニ参加ノ件ニ至リテハ固ヨリ全然別種ノ問題ニ属ス從テ此等諸案件中仮リニ兩國政府間ニ審議ノ必要アルモノアリトスルモ本件讓渡問題ト分離シテ他日ノ交渉ニ讓ルコトトシ先ツ鐵道讓渡及松花江航行權問題ト直接關係アル事項ニ付協議ヲ進メ速ニ之カ決定ヲ見ルニ至ラムコトヲ希望ス

註1 日本外交文書大正五年第一冊一七一文書

2 同右一七三文書

3 前掲一五六文書

(一)

東支鐵道南部枝線一部讓渡ノ報償タル同線ノ評価額及他ノ条件ニ関スル件

覽書案

東支鐵道南部支線一部讓渡ノ条件トシテ露國政府ノ提議セラレタル諸項中帝國政府カ本件讓渡問題ト全然分離シテ他日ノ考量ニ讓ルヲ適當ト認メタルモノニ関シテハ別ニ本日附算書末段ニ之ヲ開陳セリ帝國政府ハ其ノ以外ノ諸点ニシテ露國大使館ノ客年十二月七日及十二月十八日附算書中ニ開列セラレタルモノ即チ(一)讓渡代価(二)新情態ノ下ニ於ケル鐵道貨率ノ協定及(三)旅客及貨物ノ吸收ニ関スル兩國鐵道ノ競争ヲ防止スル方法ニ付玆ニ隔意ナク所見ヲ披瀝シテ露國政府ノ切実ナル考量ヲ請ハムトス

第一 露國政府カ讓渡代価ノ算定ニ計上セラレタル項目左ノ如シ

(イ)建設費

(ロ)線路ノ距離ニ比例スル東支鐵道会社ノ負債

(ハ)土地ノ利用ヨリ生スル收益ニシテ讓渡ノ為ニ喪失スヘキ

モノヲ年利三分ニテ還元シタル額

(ニ)貨物運送ヨリ生スル收益ニシテ讓渡ノ為ニ喪失スヘキモノヲ年利五分ニテ還元シタル額

(ホ)老燒鍋停車場改築費

帝國政府ハ先ツ一方ニ於テ右(イ)及(ロ)ト他ノ一方ニ於テ(ハ)及

(ニ)トヲ共ニ併セテ讓渡代価ノ算定ニ計上シタルハ計算ノ重

複ヲ来スモノナルコトヲ指摘セムト欲ス蓋シ(イ)及(ロ)ハ東支鐵道ニ於テ今日迄支出シタル額ヲ基礎トシ即チ現在及將來ニ於テ收益ヲ求ムカ為ノ投資ヲ示スモノニシテ又(ハ)及(ニ)ハ右ノ投資ニ依リ得タル土地及鐵道ノ運用ヨリ生スル收益ヲ一定率ニ依リ還元シ即チ該收益ヲ生セムカ為ニ要スル元本ノ額ヲ推定シタルモノナリ從テ東支鐵道ニ於テ(イ)及(ロ)ニ對シ補償ヲ受クルトキハ其ノ補償額ヲ他ノ方面ニ投資スルコトニ依リ(ハ)及(ニ)ニ予想セラレタルト同様收益ヲ得ラルヘキ筈ナルカ故ニ別ニ(ハ)及(ニ)ニ對スル補償ヲ求ムヘキ理由ナク若シ又(ハ)及(ニ)ニ對スル補償ヲ受クルトキハ(イ)及(ロ)ニ對スル補償ハ性質上其ノ中ニ包含セララルモノト謂ハザルベカラズ次ニ(ホ)老燒鍋停車場改築費ヲ讓渡代価中ニ計上セラレタルモ其ノ改築セラレタル設備ハ東支鐵道会社ノ財産ノ一部ヲ成スヘキモノニシテ之カ目的ニ供セラルル出資ハ結局同会社ノ損失ニ歸スルモノニ非ズ殊ニ若シ今後締結セララルベキ協定ニ於テ現今ノ長春寬城子ニ於ケルカ如ク日露ノ兩駅ニ各自聯絡設備ヲ為スコトヲ廢シ単ニ日本駅ニ於テ兩鐵道共通ノ設備ヲ為スコトトセハ本項露國ノ出資ハ全然之ヲ

要セザルニ至ルヘシ

將又露國政府カ讓渡代価中ニ計上セラレタル各項目ノ数字ニ至リテハ帝國政府ニ於テ正確ニ了解スルコト能ハザル所アリ例ヘバ建設費ニ就テ之ヲ見ルニ露國政府ハ該費額ヲ千二百六十三万六千留(即チ一哩ニ付十九万四千四百留)ト計上セラレタルモ本線路ノ建設ニ斯ノ如キ異常ノ巨額ヲ要セル特殊ノ事情ハ遂ニ之ヲ審ニスルコトヲ得ズ次ニ讓渡線路ノ距離ニ比例スル東支鐵道会社ノ負債トシテ二千八百二十五万七千留ヲ計上セラレタルモ右線路区間ハ六十七哩弱ニシテ之ヲ東支鐵道ノ全長千七百十哩ニ比スレバ約十六分ノ一ニ相当スルカ故ニ全線ニ對スル負債ハ二千八百二十五万七千留ノ十六倍即チ約四億五千二百二十万留ニ上ル計算トナル此ノ負債額ハ鐵道建設費ヲ包含セズシテ別ニ年々生シタル収支ノ欠損ニ基クモノト解セザルヲ得ズ果シテ然ラバ如何ナル事情ニ依リ斯ノ如キ巨額ノ欠損ヲ生ジタルヤ千九百十年以前ニ在リテハ年々ノ欠損平均一千九百万留ニ上リタルヤノ報道アルモ其ノ後東支鐵道会社ニ於テ支出ノ節約ヲ断行シタルト近年貨物殊ニ大豆輸出ノ著シク増加シタルトニ依リ欠損モ大ニ減少シ却テ若干ノ純益ヲ挙クルコトア

ルニ至リタルハ同鉄道当局者ノ明言セル所ナリ現ニ露国大使館ノ本年一月六日附覽書ニハ讓渡区間ニ於ケル貨物運送ノ収益トシテ百五十万九千留ヲ計上シアルニ対照スルモ從來東支鉄道全線ニ四億五千二百二十万留ノ収支欠損ヲ生シタル事情ハ益々推測ニ苦マザルヲ得ズ

之ヲ要スルニ露国政府カ讓渡代価ノ算定ニ計上セラレタル項目及計数共ニ帝國政府ノ予想スル所ト甚シキ懸隔アリ帝國政府ハ本問題ノ實際的解決ニ便ナラシムカ為切ニ露国政府ノ再考ヲ請フモノナリ

第二 賃率協定ノ件ニ関シテハ帝國政府ハ千九百九年南滿東支兩鉄道聯絡ニ関スル第二次會議前ニ於テ南滿洲鐵道カ出來得ル限り東支鐵道ノ希望ニ副ハンカ為其運賃ヲ引上ケ以テ現今ノ賃率ヲ制定シタル成行ニ対シ露国政府ノ注意ヲ喚起セントス而シテ露国政府今回ノ申出ノ如キ規約ヲ結ヒ其結果將來東支鐵道ノ賃率改定ニ伴ヒ南滿洲鐵道モ亦其賃率ヲ高下セザルベカラザルガ如キハ不当ニ後者ノ自由ヲ拘束スルモノト思考ス況ンヤ今回設定セラルヘキ聯絡点タル老燒鍋ヨリ大連ニ至ルノ距離ハ同所ヨリ浦塩斯德ニ至ル距離ニ比シ猶約百露里ノ近距離ナルニ於テヲヤ然レトモ南滿

洲鐵道ハ固ヨリ東支鐵道ニ対シ故意ニ競争的態度ニ出ヅルノ意思ハ寸毫モ之ヲ有セザル次第ナルヲ以テ此際兩鐵道ノ和衷協同ヲ表明シ且本問題ニ関スル東支鐵道ノ杞憂ヲ除去センカ為今後兩鐵道ハ互ニ他方ノ利益ヲ害スルヲ目的トスヘキ一切ノ行動ヲ避免スヘキ趣旨ノ協定ヲナスハ南滿洲鐵道ニ於テ何等異議ナキ所ナリトス

第三 旅客及貨物ノ吸收ニ関スル兩國鐵道ノ競争防止ノ方法ニ関シテハ帝國政府ハ前項ニ提議セル協定ヲ以テ均シク其目的ヲ達シ得ヘシト信スルモノナリ

註 右覽書案ハ二通共其假確定案トシテ仏訳セラレ五月五日在本邦露国大使ニ手交セラレタリ尚右覽書(一)ノ冒頭余白ニ左ノ如キ記載アリ(次掲一六〇文書末尾參照)

「本覽書之趣旨ヲ露国大使ニ話シ仏文覽書二通ヲ手交シ且ツ鐵道ノ代価ハ口頭ヲ以テ二千万円迄ナレバ本大臣ノ意見トシテ之ヲ政府ニ提議シ得ベシト申置ケリ」

一六〇 五月五日 本野外務大臣ヨリ 在露国内田大使宛(電報)

東支鐵道南部枝線一部讓渡及松花江航行權問

題ニ関スル露国申出ニ対スル日本政府ノ回答

振ニ付通報ノ件

第三七一号

貴官御赴任ノ際携帯セラレタル東支鐵道及松花江航行權一部讓渡ニ関シ在本邦露国大使ヨリ提出セル客年十二月七日、同月十八日及本年一月六日附覽書ニ関シ其後關係当局ノ意見ヲモ徴シ篤ト研究ヲ遂ケタル処該覽書記載ノ事項中ニハ我方ノ首肯シ能ハザル点少ナカラズ例之バ鐵道讓渡ノ条件トシテ該讓渡問題ト直接關係ナキ事項ヲ列挙セルノミナラズ鐵道讓渡ノ報償トシテ新ニ兵器彈藥ノ供給ヲ求メ又日本ニ於ケル露国注成品ノ支払ニ充テムカ為公債ノ応募ヲ促シ將又鐵道讓渡ノ価額ニ付テモ其内訳及数字共ニ我方ノ了解ニ苦シムモノアルヲ以テ帝國政府ニ於テハ閣議ノ結果右等諸点ニ付露国政府ノ切実ナル再考ヲ促スコトニ決シ在本邦露国大使ニ対シ先ツ一通ノ覽書ヲ以テ今回ノ鐵道讓渡問題ノ成行ヲ叙シ今ニ至リ露国政府ヨリ報償の趣旨ヲ以テ兵器彈藥供給ノ要求ヲ受クヘキ筋合ニ非ザル旨ヲ指摘シ從テ帝國政府ニ於テハ露国政府ノ希望スル兵器彈藥ノ供給及公債ノ応募ニ関シ及ブ限り好意的考量ヲ加フルハ辞スル処

ニ非ザルモ之ヲ以テ露国今回ノ讓与ニ対スル当然ノ報償ト解セラルルハ帝國政府ノ認容スル能ハザル所ナル旨ヲ明ニシ尚露国覽書中鐵道讓渡ノ条件トシテ列挙セル諸項中稅關制度設定ノ件及郵便業務ノ專權互認ノ件ノ如キハ鐵道讓渡問題ト必然ノ關係ヲ有スルモノニ非ズ又滿洲ニ於ケル酒精ノ生産及販売ニ関スル露支協約ニ帝國参加ノ件ニ至リテハ固ヨリ全然別種ノ問題ニ属スルヲ以テ此等諸案件中仮リニ兩國政府間ニ審議ヲ要スルモノアリトスルモ本件讓渡問題トハ之ヲ分離シテ他日ノ交渉ニ讓ルコトトシ今回ハ先ツ鐵道讓渡及松花江航行權問題ト直接關係アル事項ニ付テノミ協議スル方至当ナルヘキ旨ヲ陳述シ其他ノ諸点ニシテ露国覽書中ニ開列セラレタルモノ即チ(一)讓渡価額(二)運賃ノ協定及(三)競争禁止ノ三項ニ関シ別ニ一通ノ覽書ヲ以テ(一)ニ関シテハ露国政府ハ価額算定ノ基礎トシテ(イ)建設費(ロ)負債額(ハ)鐵道附屬地收入ノ喪失ヲ資本ニ還元シタル額(ニ)貨物輸送ノ収益ノ喪失ヲ資本ニ還元シタル額及(ホ)新聯絡点建設費ノ五項ヲ計上シ居レル処(イ)及(ロ)ハ東支鐵道ニ於テ今日迄支出シタル額ヲ基礎トシ即チ現在及將來ニ於テ収益ヲ求ムムカ為ノ投資ヲ示スモノニシテ(ハ)及(ニ)ハ右ノ投資ニヨリ得タル土

地及鉄道ノ運用ヨリ生スル収益ヲ一定率ニ依リ還元シ即チ該収益ヲ生ムカ為ニ要スル元本ノ額ヲ推定シタルモノナルヲ以テ右(イ)及(ロ)ト(ハ)及(ニ)トヲ共ニ併セテ計上セルハ計算ノ重複ヲ来スモノト謂ハザルベカラザル旨ヲ指摘シ次ニ(イ)ニ関シテハ新聯絡ノ為建設セラルヘキ設備ハ東支鉄道会社ノ財産ノ一部ヲ成スモノナレバ之カ為ニスル出資ハ同会社ノ結局ノ損失ニ帰スルモノニ非ズ將又価額ノ数字ニ付テ見ルモ建設費及負債額ノ如キスル巨額ニ達セル理由ニ付テハ我方ノ了解ニ苦シム所ナル次第ヲ説明シ又運賃協定ノ件ニ関シテハ我方ニ於テ露国側ノ申出ニ応スルニ於テハ將來東支鉄道ノ貨率改定ニ伴ヒ滿鉄モ亦其貨率ヲ高下セザルベカラザルニ至リ不当ニ後者ノ自由ヲ拘束スベキノミナラス今回設定セラルヘキ新聯絡点ヨリ大連ニ至ルノ距離ハ同所ヨリ浦塩ニ至ル距離ニ比シ猶約百露里ノ距離ニアルヲ以テ本項露国ノ要求ハ到底我方ノ応諾スル能ハザル所ナルモ一方滿鉄ニ於テモ固ヨリ東支鉄道ニ対シ故意ニ競争ノ態度ニ出ヅルノ意思ナキヲ以テ今後兩鉄道ハ互ニ他方ノ利益ヲ害スルヲ目的トスヘキ一切ノ行動ヲ停止スヘキ趣旨ノ協定ヲ為スハ滿鉄ニ於テ何等異議ナキ所ナル旨並右協定ヲ為スニ於

テハ競争禁止ノ目的ハ均シク之ヲ達シ得ヘント信スル旨ヲ開説シ露国政府ノ慎重ナル考慮ヲ求ムルコトニ決シタリ仍テ五月五日在本邦露国大使ノ來省ヲ求メ上記ノ趣旨ヲ説明シテ以上二通ノ覚書ヲ手交シ且鉄道讓渡価額ハ二千万円(20,000,000)迄ナレハ本大臣ノ意見トシテ之ヲ帝國政府ニ提議シ得ヘキ旨内話シ置キタリ覚書写五月五日郵送セリ

一六一 五月二十一日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

日露間諸懸案ニ関シ露国外務大臣内話ノ件

第四七一號

昨二十日外務大臣ニ会见ノ折日露間懸案諸問題ニ談及シタル処同大臣ノ内話大要左ノ通

日本ニ於ケル露国借款ノ件ハ今其ノ解決ヲ取急キ居ル訳ニハアラザルモ何レ其ノ内是非成立セシメタキニ付十分ノ援助ヲ希望ス又東支鉄道讓渡ノ件モ商議ヲ要スベキガ松花江問題ハ解決シタルヤニ承知ス浦塩ヨリノ列車ハ出来得ル限り其ノ數ヲ増加スル積ニテ已ニ多少ハ増加シタル筈ナリ総ジテ日露ノ關係ハ「サゾノフ」以來ノ方針ニ依リ益々親好ヲ増進セシメタシ云々御参考迄

第七〇六號

(八月五日接受)

往電第六三八號ニ関シ外務大臣帰京後当市ノ騒動ニ引続キ内閣改造問題起リ政府部内混雜シ居ル為面会ノ機会ヲ得ザリシガ突然莫斯科會議開催ノコトトナリ同大臣モ出発ノ模様アリシニ付其以前面会ヲ求メ(右會議ハ其ノ後ニ至リ延期トナレリ)

往電第六三八號ニ関シ七月十四日川上理事ハ「コザコフ」氏ト会见ノ際閣下ノ御伝言ト共ニ東支鐵道南支線讓渡問題ニ言及シ同問題カ一日モ速ニ解決セラルル様尽力方ヲ切望スル旨個人トシテ陳述セシ処露国外務大臣モ同日南露旅行ヲ終ヘ帰京スル(管ニ付)成ルベク速ニ商議ヲ纏メ來週中ニハ必ズ日本政府ヘ確答スル運ビニナリ居ル旨答ヘタルニヨリ川上ハ之ニ対シ該問題ハ今回ノ露国側回答ニヨリ円満ニ解決セラルル見込アリヤ否ヤト反問シタルニ「コザコフ」ハ多分終結スヘシト考フルモ右ハ全然日本政府ノ意向如何ニ依リ決定セラルヘキモノト思フ旨答ヘタル趣ナリ

一六三 七月二十九日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

露国外相ト鉄道讓渡問題及蒙匪ト關係アル日

本人等ニ付会谈ノ件

ヨリモ詳細電報ニ接シ居リ淡泊ニ云ヘバ露国人ハ本件ニ就キ大ニ疑惑ヲ抱キ居ル次第ナリトノコトナリシニ付本使ハ實ハ本件ニ付テハ外務大臣ヨリ訓令ニ接シ居リ過日來面会ノ機会ヲ俟チ居リシ次第ナリトテ貴電第五三九號御訓令ノ

趣旨ニ依リ篤ト説明ヲ与へ要スルニ彼等日本人ハ自己ノ危険ニ於テ行動スルモノニシテ全ク日本政府ノ関知セザル所ナルガ若シ其ノ内ニ日本士官ト称スルモノアラバ其ノ決シテ現役士官ニアラズ其ノ取締方ニ付テハ哈爾濱齊々哈爾(領事官?)モ日本政府ノ訓令ヲ受ケ誠意ヲ以テ努力シ居ル次第ニ付何等誤解ナキ様望ム旨述へタル所自分モ日本政府ガ蒙匪ニ關係アルトハ信ゼザルモ本件ハ露国人中ニ不安ノ念ヲ懷カシメ居ルニ付双方ノ間ニ行違ヲ生ゼザル様此上日本政府ノ尽力ヲ望ムトノコトナリシニ依リ本使ハ帝國政府ハ右ニ付従来トモ十分尽力シ居ル次第ナルガ同大臣ノ希望ハ直ニ傳達スヘキ旨答へ置ケリ蒙匪ハ我租借地内ニ在ル肅親王ノ命ヲ受ケ行動シ居リ其ノ有スル機関銃ノ如キモ日本ヨリ供給スル外他ニ途ナシト思ハルルニ付露国側ノ疑惑モ無理ナラヌ次第ト存セラルル処鉄道問題ニ付露国側力遷延決セザルハ或ハ同問題ト引掛ケ蒙匪問題ヲ解決セントスル底意ニアラザルヤトモ思ハル是レハ全然本使ノ推測ニ過ギザルモ御参考迄ニ申添フ外相ハ当日大本營ニ出發前ニテ取込ミ居リタル故力先般當館へ來談ノ折ノ意氣込ト異ナリ他ノ問題ニ談及セザリシニ付本使ヨリ鉄道輸送等ノ件ヲ開談

シ出来得ル限り其ノ尽力ヲ求メ置キタリ

一六四 八月十八日 本野外務大臣ヨリ 在露国内田大使宛(電報)

東支鉄道讓渡問題ニ関スル露国側回答遅延ノ

事情問合方及本件決定督促方訓令ノ件

第六七九号

貴電第七〇六号ニ関シ

東支鉄道讓渡問題ノ遷延決定ヲ見ザルハ甚ダ遺憾ノコトニシテ我方ニ於テハ一日モ速ニ之ヲ決定スルノ必要ヲ認メ居レル所ニ付貴官ハ露国当局ニ対シ其ノ後露国側回答遅延シ居ル事情ヲ問合ハサレタル上至急本件決定方督促ヲ加ヘラレタシ尚過般在本邦露国大使ノ内話ニ依レハ右回答遅延ハ哈爾濱方面ノ露国人側ヨリ反対ノ意見ヲ提出シタル為ニハアラザルヤトノ趣ナリ為念申添ユ尚同大使ニ対シテモ本國政府ニ本件督促方依頼シ置ケリ

一六五 八月二十日 在露国内田大使ヨリ 本野外務大臣宛(電報)

東支鉄道南部枝線讓渡ノ件ハ日本政府ノ希望

ニ応ジ得ベキ旨露国外相談話ノ件

附記 八月二十一日在本邦露国大使來談記錄

東支鉄道南部枝線讓渡問題ニ付露国ハ近ク確答スベキ旨内告ノ件

第七六八号(極秘) (八月二十四日接受)

今廿日外務大臣ト会見ノ折同大臣ハ本使ニ向ヒ東支鐵道讓渡ノ件ハ去ル十七日本件ニ最モ關係アル外務大蔵兩相ノ間ニ協議全ク成立シ目下政府ノ是認ヲ求メツツアルガ格別ノ故障ナキヲ信ス然シテ右ノ成案ハ全然日本政府ノ希望ニ応ジ得ルモノト思考スル旨ヲ語レリ

(附記)

八月二十一日在本邦露国大使來談記錄

東支鉄道南部枝線讓渡問題ニ付露国ハ近ク確答スベキ旨内告ノ件

八月二十一日後三時半在本邦露国大使ハ本野大臣ニ面会東支鐵道南部讓渡問題ニ付テハ十六日發電報ニテ近日中ニ確答ヲ發スヘキ旨本國政府ヨリ申來リタル旨内告セリ

一六六 九月一日 在本邦露国大使ヨリ 本野外務大臣宛

東支鐵道南部枝線讓渡問題ニ関スル党書送付

及右ニ付会見ノ日取問合ノ件

三 第四回日露協約締結關係一件 一六六

シ出来得ル限り其ノ尽力ヲ求メ置キタリ

一六四 八月十八日 本野外務大臣ヨリ 在露国内田大使宛(電報)

東支鉄道讓渡問題ニ関スル露国側回答遅延ノ

事情問合方及本件決定督促方訓令ノ件

第六七九号

貴電第七〇六号ニ関シ

東支鉄道讓渡問題ノ遷延決定ヲ見ザルハ甚ダ遺憾ノコトニシテ我方ニ於テハ一日モ速ニ之ヲ決定スルノ必要ヲ認メ居レル所ニ付貴官ハ露国当局ニ対シ其ノ後露国側回答遅延シ居ル事情ヲ問合ハサレタル上至急本件決定方督促ヲ加ヘラレタシ尚過般在本邦露国大使ノ内話ニ依レハ右回答遅延ハ哈爾濱方面ノ露国人側ヨリ反対ノ意見ヲ提出シタル為ニハアラザルヤトノ趣ナリ為念申添ユ尚同大使ニ対シテモ本國政府ニ本件督促方依頼シ置ケリ

一六五 八月二十日 在露国内田大使ヨリ 本野外務大臣宛(電報)

東支鐵道南部枝線讓渡ノ件ハ日本政府ノ希望

ニ応ジ得ベキ旨露国外相談話ノ件

附屬書 九月一日附在本邦露国大使館ヨリ日本外務省宛電書

外務省宛電書

(訳文) (註)

拜啓陳者先日御話シ致置候電信再電到着致候ニ付茲ニ長春松花江間東支鐵道讓渡問題ニ関スル露国政府ノ見解ヲ記載セル覚書ヲ送附致候就テハ本件ニ付御面談ノ為來ル九月四日火曜日ニ御都合ノ時間御指定相煩度此段得貴意候 敬具 千九百十七年九月一日 東京ニ於テ

註 此ノ訳文ハ左掲附屬書ノ露国覚書訳文ト共ニ日本外務省ニ於テ作成シタル仮訳ナリ

(附屬書)

九月一日附在本邦露国大使館ヨリ日本外務省宛電書 東支鐵道南部枝線一部讓渡問題ニ関スル我方ノ所見ニ對シ露国側見解ヲ陳述並右鐵道ノ価額ヲ二千三百万円ニ決定方提議ノ件

(訳文)

機密

露国大使ハ東支鐵道南部枝線ノ一部讓渡ノ件並松花江航行權問題ニ關スル千九百十七年五月五日附機密覚書及口上書

ヲ本國政府ニ報告シ置キタル所本國政府ニ於テハ右文書ノ内容ニ付熟慮研究ノ後左記ノ趣旨ヲ回報シ来リタルニ付右玆ニ本野子爵閣下ニ轉達ス

日本國政府カ其ノ五月五日附覽書中ニ言及セラレタル本件商議ノ由来ニ關シテハ露國政府ハ未ダ曾テ金錢上ノ補償ノミヲ交換トシテ本件鐵道ノ讓渡ヲ露國側ヨリ約束セルコトナキコトヲ先ヅ指摘セザルベカラズ(此ノ事實ハ日本ノ覺書中ニモ承認セラレ居レリ)元來右讓渡ハ短時日間ニ一定量ノ武器ヲ日本國政府ヨリ交付スルヤ否ヤニヨリ決定セラレベキモノナリシナリ然ルニ日本國政府ハ露國政府ノ申出ヲ其ノ儘應諾スル能ハズトナシタルハ注意スヘキコトナリトス本野子爵ガ引照セラレタル「サゾノフ」氏ノ覺書ニ於テモ同様追テ決定スベキ條件ノ下ニ鐵道讓渡ノコトヲ問題トナセリ

露國政府ハ東支鐵道讓渡ノ條件トシテ滿洲ニ於ケル郵便業務問題ヲ解決スルコト竝酒精ニ關スル露支協約モ日本政府ノ參加スルコトヲ固執スル意思ヲ有セズ但シ露國政府ハ露國ニ取り多大ノ利害關係アル右ノ問題ニ付露國ノ提議カ今日迄回答ヲ得ザルコトヲ日本國政府ニ向テ注意スルヲ以テベカラザル實費ニ付テハ日本國政府ニ於テ同會社ニ之ヲ償還セラレベキコト勿論ナリトス

露國政府ハ南滿洲鐵道會社カ東支鐵道會社ニ對シ毫無モ競争の態度ニ出ヅルノ意思ヲ有セザルコト且互ニ他方ノ利益ヲ害スルヲ目的トスヘキ一切ノ行動ヲ禁止セムカ爲東支鐵道會社ト協定ヲ訂結セムトスルノ意向アルコト竝ニ日本國政府ニ於テハ該協定ヲ以テ兩鐵道ガ各地ノ一方ノ活動範圍ヨリ來ル旅客及貨物ヲ自國ノ鐵道ニ吸收セムトスル一切ノ競争ヲモ等シク避ケ得ベキモノト認メラルルコトヲ記述セラレタル本年五月五日附口上書中所載ノ保障ヲ了承ス  
日本國政府カ上掲口上書中右ノ保障ヲ與フルニ先チ考量セラレタル點ニ關シ露國政府ハ東支鐵道會社ヲシテ老燒鍋浦塩斯德間及老燒鍋大連間ニ於テ賃率ノ高下ヲ決定スルノ權能ヲ取得セシムルノ考ハ毫モ之ヲ有セザリシコトヲ指摘セザルベカラズ此問題ハ兩鐵道會社間ノ協定ニ俟ツノ外ナシ露國ノ通牒ニ於テ目的トセシ所ハ主義ノ問題即チ上掲地點間ノ運賃均一ニスヘシトノ謂ニシテ賃率ノ高下ニ關スルモノニアラザリシナリ兩鐵道ノ地理上ノ情況ニ鑑ミ右主義上ノ問題ハ露國ノ利害ニ取り格段ノ價值ヲ有スルモノニシ

當然ナリト思料ス露國政府ハ日本國政府ニ於テ右兩問題ヲ鐵道ニ關スル商議ヨリ分離シ露國ノ希望ニ對シ友好的精神(之ニ對シ露國ハ日本ニ信賴スルコトヲ得ベキヲ信ズ)ヲ以テ討議ヲ促進セラレムコトヲ望ム

終リニ露國政府ハ滿洲ニ於ケル相互ノ勢力範圍内ニ稅關制度ヲ設クルコトニ關スル露日兩國ノ相互の權利ニ關スル商議ヲ他日ニ讓ルコトニ異存ナシ  
讓渡スヘキ鐵道ノ價額ニ關シテハ日本國政府ニ於テ其ノ計算ノ全體ニ亘リ異議ヲ唱ヘラレタリト雖若シ必要アルニ於テハ東支鐵道會社會計ニ於テ價額評定ノ基礎トナリタル總テノ内譯ヲ證明スルヲ得ベシ雖然露國政府ハ本問題ヲ決スルニ當リ特ニ財政上ノ見地ニ重キヲ措クベキモノト認メズ要スルニ實際的解決ニ到達セムコトヲ希望スルモノナルガ故玆ニ該鐵道ノ價額ヲ二千三百萬圓ニ決定セムコトヲ提議ス而シテ右金額ガ日本國政府ノ肯諾スル所トナリ此點ニ關シ惹起セル困難ノ解決ヲ容易ナラシムベキハ露國政府ノ信ジテ疑ハザル所ナリ露國國庫ハ東支鐵道會社ニ代ハリ本件勘定ヲ決済スベキモ右以外ニ本案協定ノ結果必要トナルベキ日露兩鐵道ノ新聯絡設置ノ爲東支鐵道會社ノ支出セザル

テ露國政府ハ外交上ノ手續ニヨリ豫メ本問題ヲ解決セムコトヲ固執セザルベカラズ曩ニ本野子爵閣下ニ提出シタル公表公文案<sup>(註3)</sup>第二及第三項ハ特ニ右ノ目的ヲ以テ立案セラレタルモノニシテ露國政府ハ五月五日ノ口上書ニヨリ之ヲ按スルニ日本側ヨリ反對アリトセバ右ハ實質ヨリモ寧ろ形式ノ問題タルベシト見ラルル次第ニテモアリ旁々日本國政府ニ於テ右二項ノ文言ニ同意セラレムコトヲ請フ  
千九百十七年九月一日

東京ニ於テ

- 註1 前掲一五九文書附記ノ覺書(一)
- 2 同右附記ノ覺書(二)ニ該當ス
- 3 日本外交文書大正五年第一冊一七一文書ノ附屬書ニ參看

一六七 九月五日 本野外務大臣ヨリ 在露國內田大使宛(電報)

東支鐵道南部枝線一部讓渡ニ關スル露國覺書ノ要領通報ノ件

第七一六号(極秘)

東支鐵道讓渡ニ關スル五月五日付帝國政府ノ覺書ニ對スル回答トシテ在本邦露國大使ヨリ九月一日付ヲ以テ覺書ノ提

出アリ右覚書ハ其前段ニ於テ露国ハ金銭上ノ補償ノミニヨリ鉄道讓渡ノコトヲ約シタルコトナキ旨ヲ弁明シタル後滿洲ニ於ケル郵便問題ノ解決及酒精ニ関スル露支協約ニ日本ノ参加スルコトヲ鉄道讓渡ノ条件トシテ固執セザルベキ旨並稅関制度設置ノ件ハ之ヲ他日ノ商議ニ讓ルニ異存ナキ旨ヲ述ヘ次テ鉄道ノ価額ニ関シテハ日本政府ノ異議ニ對シ弁明材料ヲ有スルモ露国政府ハ財政上ノ見地ニ重キヲ措カズ要スルニ實際的解決ニ到達セムコトヲ希望シ該価額ヲ二千三百萬(23,000,000)ニ決定セムコトヲ提議ス尤モ新聯絡設備ノ為東支鉄道ノ支払フヘキ実費ハ日本政府ニ依リ償還セラルベキハ勿論ナルヘキ旨ヲ記載シ終リニ競争禁止ノ為兩國鐵道間ニ協定ヲ訂結セムトノ日本ノ意嚮ニ関スル保障ヲ了承スルモ老燒鍋浦塩間及老燒鍋大連間ノ運賃ハ是非共均一ニセムコトヲ固執スルモノニシテ從テ曩ニ提出セル公表文案第二及第三項ハ其低同意セラレタシト陳ベタリ覺書郵送ス

一六八 九月五日 小幡政務局長ヨリ  
改野滿鐵理事(在京中)宛

東支鐵道南部枝線讓渡ニ関スル露国覚書中滿

一六九 九月五日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

東支鐵道南部枝線讓渡ニ関シ露国外務大臣ヨ

リ機密公文ヲ以テ申越ノ件

別電 九月五日内田大使宛本野外務大臣宛別

電第八三四号(訳文)

露国外務大臣ノ機密公文大意

第八三三号(極秘) (九月七日接受)

東支鐵道讓渡ノ件ニ関シ今五日付機密公文ヲ以テ別電第八三四号ノ通り外務大臣ヨリ申越セリ尚明六日大臣ニ面会ノ筈ニ付キ何等本件ニ付談話アラハ再電スヘシ

(別電)

九月五日在露国内田大使宛本野外務大臣宛電報第八三

四号(訳文)

東支鐵道南部枝線一部讓渡問題ニ関スル露国外務大臣

ヨリノ公文大意

第八三四号(訳文)(急)

仮政府ハ寛城子老燒鍋間ノ東支鐵道讓渡ニ同意スル為露国ニ於テ必要ト認メタル条件ニ對シ日本国政府ノ提起セラレタル異議ニ関シ慎重攻究ヲ加ヘタリ

露国政府ハ其ノ提議ノ或ル点ヲ修正又ハ削除セムトノ日本

三 第四回日露協約締結關係一件 一六九 一七〇

鉄關係部分ノ写内送並右ニ関スル滿鉄ノ意見

回示方ノ件

拜啓陳者東支鐵道讓渡ノ件ニ関シ九月一日在本邦露国大使ヨリ外務大臣へ提出セル覚書中貴社關係事項ニ関スル部分ノ原文並訳文ノ写茲ニ及御内送候間御査閱ノ上右ニ関スル貴社御意見至急御回示相成度尚申進スル迄モ無之候へ共価額ノ点ハ特ニ絶對秘密ニ附シ置カレ度別紙相添此段得貴意候 敬具

追テ右覚書末段ニ言及シアル公表文案第二及第三項トハ本年一月十日日本野大臣ヨリ中村総裁へ手交セラレタル露国政府ノ覚書ノ第二及第三項ニ有之候間右様御承相知相成度此段申添候

註 別紙和訳文ハ九月一日付在本邦露国大使覚書(一六六文書

附屬書)中

「讓渡スヘキ鐵道ノ価額ニ関シテハ」以下終迄ノ写ナリ

前掲ニ付之ヲ省略ス尚右ノ原文ハ「Pour ce qui concerne le prix du tronçon」以下終迄ナルモ該原文ハ今日記録ニ存セス

(欄外註記)

「九月五日改野理事ニ手交スミ」

国ノ希望ニ出来得ル限り応諾セムコトヲ欲シ条件ノ大部分ニ亘リ之ヲ固執セザルコトニ決定シ唯露国ニ取り緊切ノ利害ヲ有スル条件ニ限り之カ主張ヲ維持スルコトトシ又著シク鐵道価額ヲ低下シタリ

本件ニ関スル交渉ハ東京ニ於テ行ハルヘキニヨリ露国政府ハ在日本国大使ニ對シ本件商議ノ細目ニ亘リ本野子爵ト打合せ方訓令シタリ就テハ日本国政府ニ於テ本件ニ関シ露国ノ妥協的精神ヲ諒悉セラレ且日本国政府側ヨリモ其ノ友好ナル意嚮ヲ証拠立テラレムコトヲ希望ス

註 別電第八三四号訳文ハ外務本省ニ於テ作成ノ仮訳ナリ

一七〇 九月六日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

東支鐵道南部枝線一部ノ讓渡額ハ日本申出通

リ減額シタル旨露国外相内話ノ件

第八三九号 (九月九日接受)

往電第八三三号ニ関シ今六日露国外務大臣ノ内話ニ依レハ本件ハ九月一日ノ閣議ニ於テ確定シ既ニ在日本露国大使ニ電訓済ニ付目下東京ニ於テ協議中ト思考セラルル所右ハ全然日本政府ノ満足ヲ博シ得ルコトト信ス金額モ貴国申出ノ

通ニ減額シ只鐵道貨銀ニ関シ双方ノ競争ヲ避クルタメ提議  
スル所アリタリトノコトナリ因ニ云フ海拉爾問題ハ本使推  
測ノ通本件ノ進行ニ關係シ居リタルモノト見エ日本人ノ引  
揚ケモ首尾能ク連ヒ日本政府及關係当局者ノ尽力感謝ニ堪  
ヘズトテ繰返シ謝意ヲ表セリ

一七一 九月十日 国沢滿鐵理事長ヨリ  
小幡政務局長宛

在本邦露国大使覚書中滿鉄關係事項ニ付意見  
提出ノ件

附屬書 聯絡駅改築費運賃表制定等ニ関スル滿  
鉄ノ意見

東庶第一一〇二号

拜復 陳者東支鐵道讓渡ノ件ニ関シ在本邦露国大使ヨリ外  
務大臣へ提出セル覚書中弊社關係事項ニ関シ弊社ノ意見ヲ  
徴セラレタルニ依リ別紙ノ通内申旁得貴意候 敬具

大正六年九月十日

南滿洲鐵道株式会社

理事長 国沢新兵衛(印)

外務省

レ運賃均一ト爲シ而シテ其運賃表制定ハ兩鐵道ノ協議ニ依  
ルコトトス但シ連絡地點ヲ起點トスル以外ノ區間運賃ハ兩  
国親善ヲ尊重シ競争ノ運賃ノ高下ヲ避ケ自由ニ制定シ互ニ  
拘束セラレサルコト

右ノ外御參考トシテ左ノ一項ヲ追申ス

新連絡驛トナルヘキ地點ハ地形上日本ニ譲リ受ケタル地點  
(松花江南岸)ヨリ進ンテ數哩ノ南ニ建設セザルヲ得ズ左  
スレバ此數哩間ニ對スル旅客貨物ノ運賃收入ハ假リニ東支  
鐵道ノ取得トスルモ該區間ノ線路使用料ハ東支鐵道會社ヨ  
リ日本ニ支拂フベキハ當然ナリト信ス其ノ使用料ハ別ニ兩  
鐵道ノ協議ヲ要ス

一七二 九月十四日 閣議決定

東支鐵道南部枝線一部讓渡ニ関スル九月一日  
付露国覚書ニ對シ為スベキ我回答要旨ニ関ス  
ル件

(極秘)

東支鐵道讓渡問題ニ関スル九月一日附露国政府覚書ノ要点  
ハ

政務局長 小幡西吉殿

(附屬書)

聯絡駅改築費運賃表制定等ニ関スル滿鉄ノ意見

本案協定ノ結果必要トナルヘキ日露鐵道ノ新聯絡設置ノ為  
東支鐵道會社ノ支出セザルベカラザル實費ニ付テハ日本國  
政府ニ於テ同會社ニ之ヲ償還セラルベキコト

右ニ對シ

(一)讓與セラレタル地域内ノ老燒鍋驛ヲ連絡地點トナスニ付  
日本所有ノモノニ於テ諸般ノ設備ヲ爲シ東支鐵道ヲシテ之  
ヲ使用セシム尤モ其ノ設備ノ内東支鐵道ニ於テ必要ナリト  
シ希望スルモノハ協議ニ應ジ相當ノ施設ヲ爲スヘシ故ニ聯  
絡驛改築費ハ露國ニ支拂ノ要ナシト認ム

老燒鍋驛聯絡地點ヨリ浦塩斯德港間及同地點ヨリ大連港  
間運賃均一スヘキコト

右ニ對シ

(一)運賃均一ノコトハ曩ニ同意ヲ表スル能ハザル旨内申及置  
候處依然之ヲ主張スルハ當然ナリト雖今次讓渡解決ノ大局  
ニ鑑ミ此際一步ヲ譲リ連絡地點ヨリ浦塩斯德港ニ又ハ同地  
點ヨリ大連港ニ直通スル貨物ニ限り露國ノ提案ノ主義ヲ容

(一)讓渡価額ヲ二千三百万円トスルコト

(二)新聯絡設備ノ為東支鐵道會社ノ支出セザルベカラザル  
實費ハ日本國政府ヨリ東支鐵道會社ニ償還スルコト

(三)老燒鍋浦塩斯德間及老燒鍋大連間ノ運賃均一ニスル  
コト

ノ三点ニアルカ故ニ右ニ對シ帝國政府ニ於テハ左記ノ要旨  
ヲ以テ露国政府ニ回答スルコトニ致シタシ

(一)松花江左岸ヨリ寬城子ニ至ル鐵道ノ讓与価額ヲ二千三  
百万円ト決定スルニ同意スルコト

(二)新聯絡設備ハ日本ニ讓渡セラルベキ区域内ニ設ケラル  
ベキモノナルヲ以テ日本ニ於テ自ラ必要ナル設備ヲ施  
シ之ヲ東支鐵道會社ニ使用セシムルコトトスルコト

但シ右設備ニ付テハ南滿洲鐵道會社ニ於テ露国側ト協  
議スヘシ

(三)老燒鍋浦塩斯德間及老燒鍋大連間ノ運賃ハ後者ノ距離  
約百露里少ナキニ拘ラズ帝國政府ニ於テハ特ニ友好ノ  
精神ヲ以テ格段ノ讓歩ヲ行ヒ主義上右運賃均一ニス  
ルコトニ同意スルコト而シテ右運賃ハ南滿東支兩鐵道  
會社間ニ協定スヘキモノトス

註 右閣議請求案ハ九月十四日其ノ決定ヲ見タリ後出十月三十日附閣議案(一八〇文書)前段參照

一七三 九月十五日 日本外務省ヨリ  
在本邦露国大使館宛

東支鐵道南部枝線一部讓渡ニ関スル露国側提案ニ対シ回答ノ件

覚書

(一)帝國政府ハ寛城子ト松花江左岸トヲ聯絡スル鐵道讓渡ノ為露国政府ノ定メタル金二千三百万円ノ価格ヲ承諾ス  
(二)日本ハ兩鐵道接続ノ為自ラ新停車場並ニ其ノ附屬物ノ建設及設備ヲ施シ之ヲ東支鐵道会社ノ使用ニ供スヘク其ノ詳細ニ関シテハ南滿洲鐵道会社ハ予メ東支鐵道会社ト協議スヘシ  
(三)老燒鍋浦塩斯德間及老燒鍋大連間ノ運賃ハ後者ノ距離約百露里ノ短キニ拘ラズ帝國政府ニ於テハ特ニ友好ノ精神ヲ以テ主義上右運賃ヲ均一ニスルコトニ同意スヘシ而シテ右運賃ハ南滿洲鐵道会社及東支鐵道会社間ニ協定スヘキモノトス

千九百十七年九月十五日 東京ニ於テ

一七五 九月二十二日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

東支鐵道南部枝線一部讓渡問題ノ早急解決方ヲ露国当局ニ申入レタル件

第九〇三号 (九月二十四日接受)

貴電第七四六号ニ関シ

今二十二日「コザコフ」ニ面会御電訓ノ趣申入レタル処本件ニ関シテハ從來モ出来得ル限り尽力シ来リタルガ尚一層促進ニ努ムヘシト語り此上格別ノ故障モナカルベキが目下大藏当局ニ交渉中ニシテ来週初メニハ多分回訓ヲ發電シ得ヘシト信ス讓渡代価ヲ円ヲ以テ受取ル可キカ留ヲ以テスヘキカニ付大藏当局ノ決定ヲ要スル旨ヲ述ヘ余談トシテ東支鐵道側ニ於テ接続設備中同会社手元ニ於テ設備ヲ要スルモノアリ之ニ対スル費用ヲ本邦ヨリ請求セントノ意向ヲ有スル処外務省ハ斯ル請求ヲナサザル様勧告シ居ルト語レリ尙当国現政府ノ存続期シ難ク現外務大臣カ本件ニ「インテレスト」ヲ有シ居ルニ願ミ此機ヲ逸セザルヲ必要ト認メ形式等ニ付尋ネタルニ右ハ大ナル面倒ナカル可ク若シ貴大臣ニ於テ露国側提出ノ案ニ異議ナク又前述大藏省側ニ於テ異見

註 在本邦露国大使ニ手交(次掲一七四文書前段參照)セラレタルハ右覚書ノ仏訳文ナリ但該仏訳文ハ今日記録ニ存セズ

一七四 九月十九日 本野外務大臣ヨリ  
在露国内田大使宛(電報)

鐵道讓渡問題速ニ解決方露国政府ニ申入ルベキ旨訓令ノ件

第七四六号 極秘

往電第七四三号ニ関シ本大臣ヨリ在本邦露国大使ニ覚書手交ノ次第ハ同大使ヨリ既ニ本国政府ニ電報セルコトト察セラルル処露国現下ノ情勢ニ鑑ミ本件ハ一日モ速ニ解決ヲ了スルノ要アリト思考セラルルニ付貴官ハ「コザコフ」氏ニ面談ノ上本件解決方ニ付テハ帝國政府ニ於テ露国政府ノ妥協的精神ヲ諒トシ同様ノ精神ヲ以テ今回ノ回答ヲ為シタル次第ニシテ彼我ノ意見モ今ヤ殆ト一致セムトシツツアル義ニ付露国政府ニ於テモ能ク右ノ事態ヲ諒得セラレ前掲覚書ノ通りニテ速カニ解決ノ運ヒニ至ル様取計ハレ度旨申入ラレ結果電報アリタシ

註 前掲一七三文書

ナケレバ直ニ調印ノ電訓ヲ發シ得ヘシト語レリ

一七六 九月二十九日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

川上滿鐵理事ヨリ鐵道讓渡問題ヲ督促セシメタル旨報告ノ件

第九一七号 秘 (十月一日接受)

往電第九〇三号ニ関シ川上理事暇乞(十月二日出発ノ管)ノ為メ昨二十八日「コザコフ」訪問ノ序ヲ好機トシ督促セシメタル処「ウエンツェル」不在ノ為本件処分延引シ居リタル旨答ヘタルニ付川上ヨリ「ウエンツェル」カ同日飯京シタルコトヲ告ケタル所然ラハ(脱)様取計フヘキ旨答ヘ尚東支鐵道会社ニ於テ松花江北岸ニ機關車倉庫ヲ開設スル必要アリ右費用ヲ日本側ニ請求セントスル意向ナルヤニ見ユル旨語りタルニ付川上ハ右費用ハ新聯絡設備外ニ屬シ日本側ニテ負担スヘキ性質ニアラザル旨答ヘタリ

一七七 十月三日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

川上理事「ウエンツェル」ト会见シ鐵道問題ニ付督促セル旨報告ノ件

第九二四号(秘)

(十月七日接受)

川上理事昨二日出発同朝暇乞ノ為「ウエンツェル」ヲ訪問シ本使ノ意ヲ体シテ鉄道問題ノ速決ヲ促シタルトコロ本件ニ付同日外務大臣ト会見ノ筈ナルガ多年東支鉄道ニ尽瘁セル自分ニ取りテハ其ノ一部ノ讓渡ハ恰カモ片足ヲ断ツノ感アリ政府ノ決定トアレバ之ニ從ヒ全部ニテモ讓渡セザルヲ得ザル可キモ自分ノ立場諒察セラレタシト繰返シ泣言ヲ並べ尚目下露国ノ人心險惡ナレハ弥々引渡ノ際ニハ万一ノ事變ナキヲ保セズ自分ノ方ニ於テハ十分注意ヲ加フベキニ付日本側ニ於テモ十分警戒アランコトヲ望ム旨語リタル趣ナリ「クルペンスキー」ヘノ訓電ハ外務大臣トノ会見後発セラルルコトトナルヘシ

一七八 十月二十一日 本野外務大臣ヨリ 在英国珍田外(露ヲ除ク)各大使宛 (電報)

東支鉄道南部枝線一部讓渡松花江航行權問題 等二関スル日露交渉ノ経緯通報ノ件

第七一八号 極秘

客年日露協約交渉ニ発シ主トシテ帝国政府ノ露国政府ニ対スル兵器供給等既往ノ援助ニ対スル報償ノ趣旨ニ於テ露国

事項アリ一方国内政上ノ關係モアリ旁々未タ解決ノ運ビニ至ラザルモ意外ノ故障生ゼザル限リ其内結了スルコトト察セラル

右貴官限内密ノ御含迄電報ス

右仏、伊、米大使ニ転電アリタシ

一七九 十月二十二日 在本邦露国大使ヨリ 本野外務大臣宛

東支鉄道南部枝線一部讓渡等二関スル露国ノ提案ニ対シ為サレタル日本ノ回答ニ露国政府 異議ナキニ付右二関シ公文交換ヲ行ヒタキ旨 申越ノ件

附屬書 交換公文案

附記 十月二十四日外務当局ト大蔵省理財局

長トノ協議

交換公文案及鉄道讓渡ニ対スル報償金

額ノ支出方等ニ関スル件

(訳文) 秘

覚書

露国大使ハ去ル九月十五日日本野子爵閣下ヨリ提出セラレタル覚書ノ内容ヲ「ペトログラード」ニ移牒シ置キタル処露

政府ヨリ日本政府ニ対シ第二松花江左岸ト寛城子間ノ東支鉄道ヲ讓渡スルコト及松花江一部ノ航行權ヲ承認スルコトニ付商議開始セラレシガ客年十二月露国政府ハ帝国政府ニ対シ右鉄道讓渡ノ条件トシテ大要(一)讓渡価額ハ戦前ノ相場ニヨル八千万留(二)新聯絡点タル老燒鍋ト大連及浦塩間ノ運賃ノ均一(三)兩鉄道競争ノ避止其ノ他ヲ提議シ又松花江航行權ニ関シテハ(一)露国ハ秀水站上流ノ航行權ヲ抛棄スルコト(二)日本ハ嫩江河口下流ノ航行權ヲ要求セザルコト(三)嫩江河口及秀水站間ノ航行ハ兩國共自由タルコト(四)前記露国ノ承認スル日本航行權ニ対シ支那ニ於テ抗議スルトキハ露国ハ之ヲ支持セザルコト(五)嫩江河口下流並其ノ会流ニ於ケル支那又ハ日本共同其ノ他ノ航運業設立ニ対シ日本政府ハ直接間接補助ヲ与ヘザルコト等ヲ提案シ来リタルニ付帝国政府ニ於テハ詮議ノ結果松花江航行ニ関スル条件ニ付テハ全部応諾スルコトトシ鉄道讓渡ニ関シテハ主トシテ其価額ノ過大ナル所以ヲ指摘シテ露国側ノ再考ヲ促シ置キタル処去ル九月一日同政府ヨリ金二千三百万円ニ減額方申越シタルニ付我ニ於テモ之ニ応諾スルコトトシ其旨回答シタルモ聯絡設備等ノ件ニ関シ目下露国側ニ於テ我申出ニ対シ研究中ノ

国政府ヨリ右覚書ニ対シ異存無之ニ付該覚書所載ノ三点ヲ領承スヘキ旨ノ訓令ヲ接受セリ從テ本問題ハ之ニテ解決セラレタルモノト思考セラルベク而シテ露国大使ハ日本国外務大臣閣下トノ間ニ寛城子ト松花江左岸トヲ聯絡スル鉄道ノ讓渡及松花江航行權並右ニ關聯セル諸問題ニ関スル公文交換方訓令セラレタリ日本国政府ニ於テモ亦千九百十六年十二月七日付露国大使覚書第一二〇七号ノB項ニ掲ゲタル主義ノ陳述ヲ領承セラルベキハ勿論ナリトス 東京ニ於テ行ハレタル商議ノ結果原公文案第一条ニ多少ノ変更ヲ加フルノ要アルヘキニヨリ露国大使ハ玆ニ右ニ基キ改作シタル該公文案ノ字句ヲ本野子爵閣下ニ提出ス

千九百十七年十月二十二日 東京ニ於テ

註 日本外交文書大正五年第一冊一七一文書

(附屬書)

(訳文)

交換公文案

在本邦露国大使ヨリ日本国外務大臣宛公文案

在東京露国大使タル下名ハ正當ノ委任ヲ受ケ日本国外務大

臣本野子爵閣下ニ對シ左記ノ聲明ヲ爲スノ光榮ヲ有ス  
露日兩國ハ滿洲ニ於ケル經濟的活動ノ自然ノ趨勢ニ鑑ミ且  
該地方ニ於ケル露日兩鐵道間ノ競争ヨリ生ズルコトアルベ  
キ凡テノ紛糾ヲ避ケムコトヲ希望シ左記ノ協定ヲナセリ

(一)東支鐵道會社ヨリ南滿洲鐵道會社ニ對シ寬城子ト松花  
江左岸トヲ聯結スル鐵道ヲ讓渡スル爲必要ナル措置ヲ執  
ルヘシ日本國政府ハ露國政府ニ金二千三百萬圓ヲ支拂フ  
ヘク露國政府ハ其讓渡セル鐵道ノ價額問題ニ付東支鐵道  
會社ト調定スルノ任ニ當ルヘシ露日兩鐵道ノ新聯絡點ハ  
老燒鍋タルヘシ讓渡ハ當該會社間ニ協議決定セラルヘキ  
且兩線聯絡事業ヲ完成スルニ足ルヘキ期限内ニ於テ實行  
セラルヘシ

(二)斯クシテ設定セラルヘキ新情態ニ於ケル露日兩鐵道間  
ノ直接運輸業務開始前ヨリシテ右兩鐵道ノ聯絡點ヲ發シ  
日本鐵道線路ノ通スル海港ニ仕向ケラレタル(反對ノ場  
合モ亦之ニ準ス)貨物ニ適用スヘキ運賃ハ右同一聯絡點  
ヲ發シ浦塩斯德ニ仕向ケラレタル(反對ノ場合モ亦之ニ  
準ス)同種ノ貨物ニ適用セラルヘキ運賃ヨリ低廉ナラザ  
ル様新ニ運賃表ヲ制定スヘシ

交換公文案及鐵道讓渡ニ對スル報價金額ノ支出方等ニ  
關スル件

大藏省意見

十月二十四日大藏省理財局長ト協議事項要領

一、交換公文案第一項ハ左記ノ如ク改正セハ差支ナカルヘ  
シ

「寬城子ト松花江左岸トヲ聯絡スル鐵道ヲ讓受クル爲日  
本國政府ハ露國政府ニ對シ金二千三百萬圓ヲ支払フヘク  
露國政府ハ東支鐵道會社ト讓渡セラレタル鐵道ノ價額ノ  
問題ヲ解決スルノ任ニ當ルヘシ日露兩鐵道ノ新聯絡點ハ  
老燒鍋タルヘシ讓渡セラレタル鐵道ノ授受ハ東支鐵道會  
社ト南滿洲鐵道會社トノ間ニ協議決定セラルベキ且兩線  
聯絡事業ヲ完成スルニ足ルベキ期限内ニ於テ實行セラル  
ヘシ」

尚金額ノ支出等ニ關シ理財局長ノ談左ノ如シ

一、二千三百萬圓ノ支出ト政府ヨリ滿鉄へ出資ノ件ハ二個  
ノ別個ノ性質ヲ有スル行為ニシテ前者ハ予算ヲ要シ若シ  
事緊急ニシテ予算計上ノ出来ザル場合ニハ止ムナク責任  
支出ヲナシ他日議會ノ追認ヲ求ムルノ他ナキモ後者ハ日

(三)兩鐵道當局ハ陸路又ハ河川ニヨリ他方鐵道ノ活動範圍  
内ヨリ來ル旅客又ハ貨物ヲ自國ノ鐵道ニ吸收セムコトヲ  
目的トスル凡テノ措置ヲ避止スヘシ

(四)上掲鐵道線路讓渡ノ細目及露日兩國鐵道ノ接續ニ關ス  
ル諸條件並ニ前掲第二及第三點ニ於テ問題トナレル規定  
ヲ實施セムカ爲執ルヘキ措置ハ東支鐵道會社及南滿洲鐵  
道會社間ニ協定セラルヘシ

(五)露國政府ハ秀水站ノ村落ヨリ上流ニ在ル松花江航行權  
ヲ拋棄シ又嫩江河口ヨリ上流ニ在ル松花江ニ於ケル日本  
ノ航行權ニ對シ支那政府ニ於テ反對スルトモ同政府ヲ支  
持セザルヘシ而シテ日本國政府ハ今後嫩江河口ヨリ下流  
ニ在ル松花江ニ於ケル日本航行權ノ問題ヲ提起セザルベ  
ク又松花江ノ右ノ部分竝其ノ會流ニ於テ支那又ハ日支共  
同其ノ他ノ航運業設立ニ對シ直接間接何等幫助ヲ供與セ  
ザルヘシ

註 日本国外務大臣ヨリ在本邦露國大使宛公文案ハ其内容右案  
文ト同一ナルニ付此処ニハ省略ス尚右覽書及附屬書ノ訳文  
ハ日本外務省ニ於テ作成シタル仮訳ナリ

(附記)

十月二十四日外務當局ト大藏省理財局長トノ協議

露戰役後東支鐵道引受ノ前例ニヨリ全財産ヲ政府ノ出資  
トシテ滿鉄ニ交付スルニ當リ予算ヲ要セズ又二千三百萬  
圓ハ臨時事件費ヨリ支出スルノ方法モアルベキモ目下事  
件費ハ右金額ニ不足ナルニ付仮令一部ノ支出ヲナスモ残  
余ハ予算計上又ハ責任支出ヲ爲スベキモノトス  
最後ニ理財局長ハ希望トシテ右二千三百萬圓ハ日本ノ露國  
ニ對スル売上代金ノ支払ニ引充ツルコトト致シタキ旨語り  
タリ

一八〇 十月三十日 閣議案

東支鐵道南部枝線一部讓渡及松花江航行權ニ

關シ日露兩國間取極結了方閣議請求ノ件

(極秘) 閣議案

東支鐵道讓渡問題ニ關スル九月一日附露國政府覽書ニ對シ  
テハ九月十四日閣議決定ノ通り外務大臣ヨリ在本邦露國大  
使ニ對シ照覆シ置キタル処露國政府ハ右帝國政府ノ回答ニ  
異存ナキ趣ニテ今回在本邦露國大使ヨリ東支鐵道讓渡及松  
花江航行權ニ關スル公文交換方ニ關シ別紙覽書<sup>(註)</sup>訳文写ノ通

申出アリタリ然ルニ本公文ノ字句中多少ノ修正ヲ加フルコトヲ妥当トスル点ナキニ非ザルモ露国ノ政情変転常ナキニ顯ミ本件ハ此機ヲ逸スルニ於テハ再ヒ行惱ニ陥ルナキヲ保セザルニ付露国政府今回ノ回答ハ去ル五月四日竝九月十四日閣議決定ノ趣旨ニ適合シ居レル次第ニ顯ミ右ニテ此際至急取極ヲ了スルコトト致度シ

(欄外註記)

「本案ハ大蔵大臣ニ於テ一応研究シタントノコトニテ閣議ニ至ラズ」

別紙覽書及交換公文案ハ前掲(二七九文書)ニ付省略ス

一八一 十一月一日 本野外務大臣ヨリ  
在本邦露国大使宛

十月二十二日附露国大使ヨリ提出ノ交換公文

案第一項及第五項ニ関スル我修正案提示ノ件

附記 十月二十二日附露国大使提出ノ交換公文案第一項及第五項ノ我修正案ニ関スル政務局記録

交換公文案

前文 原案ト同シ

(一)露国政府ハ寛城子ト松花江左岸トヲ聯結スル鉄道ヲ日

案ノ仏訳文ヲ手交セリ(該仏訳文ハ今日記録ニ存セズ)

(附記)

十月二十二日附露国大使ヨリ提出ノ交換公文案第一項及第五項ノ我修正案ニ関スル政務局記録

一、十月二十二日附在本邦露国大使ノ覺書ニ添付セル交換公文案第五項ニハ「露国政府ハ……松花江ニ於ケル日本ノ航行權ニ対シ支那政府ニ於テ反対スル時ハ同政府ヲ支持セザルベシ」トノ字句アル処之ヲ公表スル時ハ支那政府ニ対スル外交上ノ影響面白カラサルニ付右ハ

(一)「露国政府ハ……松花江ニ於ケル日本ノ航行權ニ対シ何等反対ヲ提起シ又ハ支持セザルベシ」(ne soulevera ni appuiera aucune objection à la navigation japonaise)

ト改正スルコトト致度

(二)然ルニ右修正ニヨレハ「反対ヲ支持セザルヘシ」トノ原案ノ文句以外ニ「反対ヲ提起セザルベシ」トノ新ナル文句附加セラレ居ルニ付此点ニ関シ或ハ露国大使ニ於テ本國政府ニ請訓ノ上ニ非ザレバ承知シ難キ旨申出ヅルヤモ計ラレザル処其節ハ「右反対ヲ提起云々」ヲ省キ單ニ「何等反対ヲ支持セザルヘシ」ト改正スルコトニ致度

本國政府ニ讓渡スル為必要ナル措置ヲ執ルコトヲ約ス而シテ日本國政府ハ右讓渡ノ代価トシテ金二千三百万円ヲ露国政府ニ支払フヘク露国政府ハ其ノ讓渡セル鉄道ノ価額問題ニ付東支鐵道会社ト測定スルノ任ニ當ルヘシ日露兩鐵道ノ新聯絡点ハ老燒鍋タルヘシ讓渡シタル鐵道ノ授受ハ東支鐵道会社ト南滿洲鐵道会社トノ間ニ協議決定セラルヘキ且兩線聯絡事業ヲ完成スルニ足ルヘキ期限内ニ於テ実行セラルヘシ

(二)原案ト同シ

(三)原案ト同シ

(四)原案ト同シ

(五)露国政府ハ秀水站ノ村落ヨリ上流ニ在ル松花江ノ航行權ヲ抛棄シ又嫩江河口ヨリ上流ニ在ル松花江ニ於ケル日本ノ航行權ニ対シ何等反対ヲ提起シ又ハ支持セザルヘシ而シテ日本國政府ハ今後嫩江河口ヨリ下流ニ在ル松花江ニ於ケル日本航行權ノ問題ヲ提起セザルベク又松花江ノ右ノ部分並ニ其ノ会流ニ於テ支那又ハ日支共同其他ノ航運業設立ニ対シ直接間接何等幫助ヲ供与セザルヘシ

註 十一月一日日本野外務大臣ヨリ在本邦露国大使ニ対シ右修正

(三)万一右改正ニモ故障アルニ於テハ止ムヲ得ザルニ付原案通り「支那政府云々」ノ文句ノ仮取極ムルコトト致スノ他ナカルベシ

二、交換公文案第一項ハ左記ノ通り改正シ度大蔵省ノ希望ナリシモ現下ノ露国政情ニ顯ミ原案通りニテ取極方重ネテ協議シタル結果大蔵省ニ於テハ原案公文ノ取極以外ニ左記ノ趣旨ヲ明瞭ナラシムルニ足ルヘキ文書ヲ右公文交換ト同時ニ外務大臣ヨリ在本邦露国大使ニ差入レ置カルル様致度、サスレバ将来本件ニ関シ国内法上ノ問題ヲ生スルトモ何等故障ナカルベシトノ意見ナリ

左記

「寛城子ト松花江左岸トヲ聯絡スル鐵道ヲ讓受クル為日本國政府ハ露国政府ニ対シ金二千三百万円ヲ支払フヘク」露国政府ハ讓渡シタル鐵道ノ價格ニ付東支鐵道会社ト測定スヘシ日露兩鐵道ノ新聯絡点ハ老燒鍋タルヘシ(讓渡セラレタル鐵道ノ授受ハ東支鐵道会社ト南滿洲鐵道会社)トノ間ニ協議決定セラルヘキ且兩聯絡事業ヲ完成スルニ足ルヘキ期限内ニ於テ実行セラルヘシ

(記註外欄)

(欄外註記)

「括弧」内ハ原案ト異ナル部分」

一八二 十一月二日 本野外務大臣ヨリ  
在露国内田大使宛(電報)

東支鐵道南部枝線一部讓渡及松花江航行權問

題ニ關スル交換公文中第一項及第五項ノ修正

ニ付通報ノ件

第八三〇号 極秘

往電第八〇四号ニ関シ交換公文案第一項ハ東支鐵道会社ヨリ満鉄ニ対シ鐵道ヲ讓渡スル形ト成リ居ル所我方ニ於テハ金額ハ国庫ヨリ支出シ政府ニ於テ買取リタル上満鉄ニ対シ政府ノ出資トシテ讓受財産ヲ交付スルコトニ決定シ居ル為讓受タルモノハ日本政府タルコトヲ明ニスルノ要アリ又 La cession sera effectuée云々ハ La remise du Chemin de fer cédé sera effectuée云々ト改ムル方適當ナリト認メタルニヨリ第一項全文ヲ別電第八三二号<sup>(註2)</sup>ノ通り修正スルコトトシ又第五項ニハ露国政府ハ松花江ニ於ケル日本ノ航行權ニ対シ支那政府ニ於テ反对スルトキハ同政府ヲ支持セサルヘシトノ字句アル処之ヲ公表スル時ハ支那政府ニ対スル外交上ノ影響面白カラザルニ付右ハ ne soulevera

一八四 十一月五日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛

東支鐵道讓渡問題承認ヲ露国外相ニ申入ノ件

第一一一号 極秘 至急(延着、十一月二十二日接受)  
昨四日外務大臣ニ面会ノ折東支鐵道讓渡ニ関シ何等在日本露国大使ヨリ電報アリタリヤト尋ネタル処数週間前ニ同大使ヨリ協議全ク成リタル旨電報アリ本件ハ既ニ結了シ居ルモノト認メ居ル旨ヲ答ヘタルニ付同大臣訪問間際ニ接受シタル貴電第八三〇号前段「日本政府讓受ケ云々」ノ趣旨ヲ詳細ニ説明シ同大使ヨリ來電次第同大臣巴里ヘ向ケ出發前(別電第一一一二号参照)ニ是非共承認ノ回訓ヲ發セラレシコトヲ望ム旨ヲ述ヘ置ケリ同大臣出發前ニ本件片付キ居ラザル節ハ又々如何ナル故障差起ルコトナキヲ保シ難キニ付右様取計リタル次第ナリ

一八五 十一月六日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛

鐵道讓渡ニ關スル交換公文ノ我修正案ヲ「コ

ザコフ」ニ送付ノ件

第一一九号(極秘) (十一月二十八日接受)

三 第四回日露協約締結關係一件 一八四 一八五 一八六

ni appuiera aucune objection à la navigation japonaise

云々ト修正スル方可然ト認メ其旨十一月一日在本邦露国大使ニ協議シタル処同大使ハ早速本邦政府ニ請訓スヘキ旨答ヘタリ

註1 本野外務大臣發往電第八〇四号ハ記録ニ存セザルモ十月二十二日附在本邦露国大使ヨリ本野外務大臣宛覽書及交換公文案(前掲一七九文書)ニ付内田大使宛通報シタルモノト認メラル

註2 別電第八三一号亦記録ニ存セザルモ右ハ前掲一八一文書我修正案ノ仏訳文ヲ通報シタルモノト認メラル

一八三 十一月五日 本野外務大臣ヨリ  
在露国内田大使宛(電報)

東支鐵道南部枝線讓渡問題至急取運ニ至ル様

懇談方ノ件

第八四一号

往電第八三〇号ニ関シ變転極マリナキ露国現下ノ政情ニ顧ミ本問題ハ一日モ速ニ解決致度ニ付貴官ハ右御含ノ上「コザコフ」其ノ他可然筋ニ面会シ在本邦露国大使ノ請訓ニ対シ至急回訓ノ取運ニ至ル様篤ト懇談相成度シ

貴電第八四一号ニ関シ

「コザコフ」ニ尋ネタルニ在日本露国大使ヨリノ請訓未タ到着シ居ラザル趣ニ付不取敢修正ノ点一ツ書トシテ送附シ置キタリ速ニ請訓セシメラルルコト必要ト思考ス本件ニ關スル往電第一一一二号<sup>(十一月五日發二十一頁著)</sup>ハ多分右貴電ト行違ニ接受セラレタルコトト信ス

一八六 十一月八日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛

露国外相逮捕セラルトノ風説報告ノ件

第一一二五号 (延着、十一月二十二日接受)  
貴電第八四一号ニ関シ(極秘)  
今八日「コザコフ」ノ丸毛ニ語ル所ニ抛レハ外務大臣モ速捕セラレタリトノ説アリ  
此際本件進捗ニ関シ何等言明シ難キモ事態ノ許ス限り及フ丈尽力スル積ナル趣

一八七 十一月十六日 閣議決定

東支鐵道南部枝線一部讓渡及松花江航行權ニ  
關スル日露兩國間公文交換方閣議請求ノ件

一八七 一四七

閣議案

寛城子ト松花江左岸トヲ連結スル東支鉄道ノ讓渡並松花江航行權ニ関シ帝國政府ハ曩ニ九月一日附ヲ以テ在本邦露国大使ノ提出セル覚書ニ対シ九月十四日閣議決定ノ通露国政府ニ照覆シ置キタル処露国政府ハ右帝國政府ノ回答ニ同意シ在本邦露国大使ニ対シ別紙甲号訳文ノ公文書ヲ帝國政府トノ間ニ交換方訓令シタル趣同大使ヨリ通牒シ来レリ然ルニ右公文書案ニ記載セル事項中第一項ニ於テ鉄道ノ讓渡ハ之ヲ東支鐵道会社ヨリ南滿洲鐵道会社ニ対シ行ヒ金額ノ支払ハ之ヲ帝國政府ヨリ露国政府ニ対シ行フ旨ノ字句アルハ實際ノ事態ニ適合セサル嫌アリ即チ右鉄道ノ讓受者ハ帝國政府ニシテ南滿洲鐵道会社ニ非ス將又第五項ハ嫩江河口ヨリ上流ニ在ル松花江ニ於ケル日本ノ航行權ニ対シ支那政府ニ於テ反対スルコトアリトモ露国政府ハ支那政府ヲ支持セサルヘキ旨記載シアル処右支那政府ノ反対ヲ予想シテ之ニ備フルノ趣旨ヲ明示スルノ字句ハ他日之ヲ支那政府ニ通告又ハ公表スルニ於テハ支那ニ対スル外交上ノ影響面白カラサルヘキニ鑑ミ外務大臣ハ右項ニ対シ夫々必要ナル修正ヲ加ヘ十一月一日別紙乙号訳文ノ修正案ヲ在本邦露国大使ニ

提出シ同大使ハ右修正案ニ関シ早速本國政府ニ電報シテ請訓シタリ

然ルニ露国今次ノ政変ニ際セシ目下ノ情況ニ於テハ曠日弥久果シテ何時露国政府ノ回答ニ接スヘキヤ期待シ難キニ付今後相当ノ期間内ニ右修正案成立セザルニ於テハ臨機別紙甲号ノ俣ニテ公文書ノ交換ヲ了スルヲ得策トス而シテ帝國政府提議ノ修正案成立セザル場合ニ於テ生スヘキ前項第一項ノ事態ヲ調和セントタメニハ政府ヨリ南滿洲鐵道会社ニ対シ左ノ趣旨ノ命令ヲ發スルコトト致度

(一)南滿洲鐵道会社ハ東支鐵道会社ノ所有ニ屬スル寛城子ト松花江左岸トヲ連結スル鐵道ヲ政府ノ為ニ南滿洲鐵道会社ノ名義ニ於テ讓受クヘキコト

(一)前項ノ鐵道ハ南滿洲鐵道会社ニ引渡ヲ了シタルトキハ直ニ政府ノ所有ニ歸屬スルコト

尚前記公文書第五項中帝國政府提議ノ修正ヲ加ヘズシテ公文交換ヲ了スル場合ニ於テ之ヲ支那政府ニ通告シ又ハ一般ニ公表スルノ必要ヲ生スルニ至リタルトキハ単ニ其ノ摘要ヲ示スニ止メ全文ノ通告又ハ公表ハ之ヲ避クル様露国政府ト協議スルコトト致度

註 右閣議案ノ冒頭余白ニ左ノ記載アリ

「十一月十四日大蔵大臣大阪ニ出張ニ付同日大臣ヲ其ノ私邸ニ訪問シ本書ヲ示シ一応ノ説明ヲ為シタル処窮極ニハ法律一点張ヨリスレバ種々議論可有之モ先以テ一応ハ本案ノ趣旨ニテ理屈ヲ附ケ得ベキニヨリ本案ノ趣旨ニテ本件進行ニ同意スル旨ヲ明言セラレタリ」

尚別紙甲号及乙号省略ス右甲号ハ前掲一七九文書附屬書ト又乙号ハ前掲一八一文書ノ我修正案ト夫々同文ナリ

一八八 十一月十六日 本野外務大臣ヨリ  
在本邦露国大使宛

東支鐵道南部枝線一部讓渡及松花江航行權問  
題解決ノ為公文交換ヲ行ヒタキ旨申越ニ対シ  
回答ノ件

附屬書 日本国外務大臣ヨリ在本邦露国大使宛  
公文案

覚書

機密

露国大使閣下ハ去ル十月二十二日附覚書ヲ以テ日本国外務大臣ニ対シ露国政府ハ九月十五日附本野子爵ノ覚書ニ挙ケタル三点ヲ領承スヘキ旨露国大使閣下ニ訓令セルコト並從テ本問題ハ解決セルモノト思考シ得ヘキニヨリ露国大使ニ

對シ寛城子ト松花江左岸トヲ連結スル鐵道ノ讓渡及松花江航行權竝右ニ関聯セル諸問題ニ関スル公文書交換方訓令セラレタル旨通牒相成尚日本國政府ニ於テモ亦千九百十六年十二月七日附露国大使館覚書第一二〇七号ノB項<sup>(註)</sup>ニ掲ケタル主義ノ陳述ヲ領承セラルヘキハ勿論ナル旨言及セラレタリ帝國政府ハ斯クノ如クニシテ本問題ノ解決セルヲ見満足ノ意ヲ表スルト共ニ上掲露国大使館ノ覚書B項ニ掲ケタル主義ノ陳述ヲ領承ス

千九百十七年十一月十六日 東京ニ於テ

註 前掲一七九文書ノ註參照  
(附屬書)

交換公文案

日本國外務大臣ヨリ在本邦露国大使宛公文案  
使閣下ニ對シ左記ノ聲明ヲ爲スノ光榮ヲ有ス

日露兩國ハ滿洲ニ於ケル經濟的活動ノ自然ノ趨勢ニ鑑ミ且該地方ニ於ケル日露兩鐵道間ノ競争ヨリ生スルコトアルヘキ凡テノ紛糾ヲ避ケムコトヲ希望シ左記ノ協定ヲナセリ

(一)東支鐵道會社ヨリ南滿洲鐵道會社ニ對シ寬城子ト松花江左岸トヲ聯結スル鐵道ヲ讓渡スル爲必要ナル措置ヲ執ルヘシ日本國政府ハ露國政府ニ金二千三百萬圓ヲ支拂フヘク露國政府ハ其ノ讓渡セル鐵道ノ價額問題ニ付東支鐵道會社ト調定スルノ任ニ當ルヘシ日露兩鐵道ノ新聯絡點ハ老撾鍋タルヘシ讓渡ハ當該會社間ニ協議決定セラルヘキ且兩線聯絡事業ヲ完成スルニ足ルヘキ期限内ニ於テ實行セラルヘシ

(二)斯クシテ設定セラルヘキ新情態ニ於ケル日露兩鐵道間ノ直接運輸業務開始前ヨリシテ右兩鐵道ノ聯絡點ヲ發シ日本鐵道線路ノ通スル海港ニ仕向ケラレタル(反對ノ場合モ亦之ニ準ス)貨物ニ適用スヘキ運賃ハ右同一聯絡點ヲ發シ浦塩斯德ニ仕向ケラレタル(反對ノ場合モ亦之ニ準ス)同種ノ貨物ニ適用セラルヘキ運賃ヨリ低廉ナラサル様新ニ運賃表ヲ制定スヘシ

(三)兩鐵道當局ハ陸路又ハ河川ニヨリ他方鐵道ノ活動範圍内ヨリ來ル旅客又ハ貨物ヲ自國ノ鐵道ニ吸收セムコトヲ目的トスル凡テノ措置ヲ避免スヘシ

(四)上掲鐵道線路讓渡ノ細目及日露兩國鐵道ノ接續ニ關ス

ハ本件商議ハ根本的ニ覆ヘル様ノコトナシトモ計ラレザルニ付詮議ノ結果往電第八〇四号露國大使カ本国政府ヨリ已ニ公文交換方承認ヲ得居ル案ニテ兎ニ角交換ヲ了スルコトニ決定シ露國大使ノ承諾ヲ得タルニヨリ上奏裁可ヲ經テ十一月二十二日公文交換方ヲ了セリ本件ハ支那政府ニ通告シ次テ一般ニ公表スル要アル処客月二十二日往電第八〇四号ノ覺書ヲ提出セル時ト今日トハ露國政府ノ狀態一變セルニ付今回同大使ノ執リタル措置ハ將來成立スヘキ本国政府ノ追認ヲ得ルヤ否ヤ疑問ナキニ非ザルノミナラズ同大使ノ地位ニモ影響スルコトナキヲ保シ難シト察セラルル様ノ次第ニテ同大使ニ於テハ追テ追認ヲ得ルマテハ公文交換濟ノ義ハ絶対ニ秘密ニ付シ置キタキ希望ナルニ付当方ニ於テモ極秘ニ附シ置クベク將又他日愈々通告又ハ公表ノ運トナルトモ往電第八三〇号ヲ以テ申進タル通第五項ノ支那政府ニ對スル關係モアリ全文トセズ適宜要領ノミ通告及公表スルコトト致度キ考ナルニ付右様御承知置アリタシ

註1 前掲一八二文書

2 同右文書ノ註1参照

ル諸條件並ニ前掲第二及第三點ニ於テ問題トナレル規定ヲ實施セムカ爲執ルヘキ措置ハ南滿洲鐵道會社及東支鐵道會社間ニ協定セラルヘシ

(四)露國政府ハ秀水站ノ村落ヨリ上流ニ在ル松花江航行權ヲ拋棄シ又嫩江河口ヨリ上流ニ在ル松花江ニ於ケル日本ノ航行權ニ對シ支那政府ニ於テ反對スルトモ同政府ヲ支持セザルベシ而シテ日本國政府ハ今後嫩江河口ヨリ下流ニ在ル松花江ニ於ケル日本航行權ノ問題ヲ提起セザルヘク又松花江ノ右ノ部分並其ノ會流ニ於テ支那又ハ日支共同其ノ他ノ航運業設立ニ對シ直接間接何等幫助ヲ供與セザルヘシ

一八九 十一月二十二日

本野外務大臣ヨリ  
在露國內田大使宛(電報)

東支鐵道問題ニ關シ十一月二十二日公文交換

終了並本件ノ秘密嚴守方及取扱振ノ件

第八六〇号(極秘)

往電八三〇号ヲ以テ申進タル通在本邦露國大使ハ我修正案

ニ關シ本國政府ニ請訓シタルモ露國現下ノ政情ニ於テハ何時回訓ニ接スルヤ見据エ付カザルノミナラズ場合ニ依リテ

一九〇 十一月二十九日

寺内内閣總理大臣ヨリ  
本野外務大臣宛

東支鐵道南部枝線一部讓渡其ノ他ニ關スル交

換公文案御裁可ノ件

附記 右公文交換手續覽

内閣外甲第一四九号

大正六年十一月二十九日

内閣總理大臣伯爵 寺内 正毅(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

指令

東支鐵道讓渡其ノ他ニ關スル交換公文案請議ノ通上奏裁可ヲ經タリ

(附記)

(極秘)

東支鐵道讓渡及松花江航行權ニ關スル公文交

換手續覽(政務局記)

一 大正六年十一月十六日金曜日閣議決定

(各大臣ノ署名セル外務省起草ノ閣議案原紙ハ内閣ニ保管本省ニハ原稿ヲ保管ス)

三 第四回日露協約締結關係一件 一九一 一九二

- 一 十一月十七日總理大臣ヨリ大演習ノ為彦根ニ御駐蹕中ノ陛下ニ正式上奏ス
- 一 十一月十八日日曜日朝樞密院へ御下附同午後二時幣原外務次官樞密院ニ於テ説明
- 一 十一月十九日月曜日午後三時幣原次官ヨリ二上樞密院書記官長へ交換公文双方ノ分仏文各五十五部送附
- 一 十一月二十一日水曜日午前十時樞密院會議開催  
陛下臨御ナシ
- 寺内総理本野外務大臣幣原次官勝田大藏大臣列席説明  
満場一致ヲ以テ公文案可決

一 十一月二十二日午後三時外務大臣官邸ニ於テ本野外務大臣ト「クルーペンスキー」大使トノ間ニ交換ヲ了ス

(欄外註記)

「此レヨリ先外務大臣巴里會議ニ松井珍田兩大使參列ノ件上奏ノ為彦根ニ赴キ十五日午後右件上奏ト共ニ本件ヲモ内奏セラレタリ外務大臣右内奏了リ十一月十六日朝帰京ス」

一九一 十二月三日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

東支鉄道讓渡問題ニ関シ布施通信員ト「ポリウワノフ」トノ談話内容報告ノ件

本月七日「コザコフ」來訪ノ節勞農政府委員ニ對シ外務省機密文書庫鍵引渡ノ際同人若クハ「ネラトフ」ヨリ東支鉄道讓渡ニ関スル書類ニ付引継キアリタルヤト尋ネタル処同人等ハ右鍵引渡サヘ全ク余義ナキニ出デ厭々ナガラ行ヘル所ナレバ事務ニ関シテハ一切言及シタルコトナシ尤モ「ポリハノフ」(往電第一一七五号参照)ヨリ日露ノ秘密外交文書ハ那レニ在リヤトノ問アリタルニ付之ニ對シテハ右ハ一ト纏メトナリ居ラズ或物ハ現在鍵引渡ノ書庫中ニアルモ原文ハ概ネ倉庫中ニ在リト答ヘタル趣ニ有之候右何等御參考迄此段報告申進候也

一九三 十二月十五日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

布施通信員ニ語リタル「ポリウワノフ」ノ談話報告ノ件

第一二五三号 (延着、大正七年一月十七日接受)  
今十五日布施ノ來談ニ依レハ今朝「ポリウワノフ」ハ同人ニ向ヒ勞農政府ハ東支鉄道問題ヲ当館ト交渉スル場合ニ至ラバ必ズ之ヲ承諾スルニ至ルベシト語リ又此事ヲ日本新聞ニ通信センコトヲ求メ暗ニ我國民ノ同情ヲ得ント勉メ居ル

三 第四回日露協約締結關係一件 一九三 一九四

第一二〇五号

(十二月九日接受)

昨日(本月二日)大阪毎日新聞通信員カ本使ニ内話セル所ニ拠レハ同人ハ過日「ポリウワノフ」ニ面会シ東支鉄道讓渡ハ如何ニ成リ居ルヤヲ尋ネタル処右ハ既ニ相談纏リ実行ノ域ニ達シ居ルモノノ如シト答ヘ尚同通信員カ勞農政府ニ於テ前政府ノ決定ヲ變更スルカ如キコトナキヲ望ムト述ヘタルニ其義ハ「ツロツキー」ニ尋ネ異レトテ程ヨク回答ヲ避ケタリトノコトナリ布施ハ不日「ツロツキー」ニ面会ノコトニ成リ居ルニ付当人限りニテ本件ニ談及シ其ノ結果報告方依頼シ置ケリ

一九二 十二月九日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛

東支鉄道讓渡ニ関スル秘密外交文書ノ露国側所在ノ件

政機密第三七号

大正六年十二月九日

在露

特命全權大使子爵 内 田 康 哉(印)  
外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

趣ナリ

一九四 十二月十七日 本野外務大臣ヨリ  
在英国珍田大使宛(電報)

日露協約ニ関スル英国側ノ誤解除去ノ為適當ノ措置方英国外相ニ申入方訓令ノ件  
第八四八号

日露秘密協約 Manchester Guardian 論評ニ関スル貴電ニ関シ

若シ英国有力者間ニ右様ノ誤解アリトセハ帝國政府ノ甚遺憾トスル処ナルニ付貴官ハ英国外務大臣ニ会见ノ上

(一)日露協約ハ支那ヲ日露ニ對シ敵意ヲ有スル第三国ノ政治的掌握ニ帰セシメザルコトヲ主要目的トシ日英同盟條約ハ侵迫セラレタル日英ノ權利利益擁護ヲ主要目的トシ兩者各 casus foederis ヲ異ニスルヲ以テ目的ニ於テモ適用上ニ於テモ互ニ扞格スル処ナキコト  
(二)殊ニ協約第四条ハ日本側トシテハ日英同盟條約ヲ尊重スルノ趣旨ヨリ出デタルモノナルコト

(三)日露協約ハ日英同盟條約ト全然其ノ終了期日ヲ同ウシ畢竟兩者相俟ツノ意ナルコト

(四)日露協約調印前ニ案ノ内容ヲ英国政府ニ内示シタルハ即日英同盟条約第三条ヲ遵守シタルニ依ルモノナルコト等ヲ指摘セラレ英国ノ一部ニ右様ノ誤解アリトセハ兩國ノ親交上面白カラザルノミナラス真ニ心外ノ次第ニ付英国政府ニ於テモ同感ナルニ於テハ右誤解ヲ除カムカ為何等カ適當ノ措置ヲ執ラレムコトヲ希望スル旨申入レラレ度シ

右為參考在欧米各大使ニ転電アリ度シ

一九五 十二月十九日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

勞農政府機關紙「イズベスチア」ニ日露秘密協約全文公表ノ件

第一二七〇号 (大正七年一月十八日接受)

勞農政府ハ十二月十九日其機關紙「イズベスチア」ヲ以テ千九百十六年七月三日ノ日露秘密協約全文ヲ發表シ本協約中ノ第三國トハ英米兩國ヲ指スモノナリトノ前置ヲ附セリ在欧米各大使ニ転電セリ

事項四 日英通商航海条約ニ濠洲加入ノ件

一九六 七月十七日 在シドニー清水総領事ヨリ  
本野外務大臣宛

日英通商航海条約ニ濠洲ノ加入ヲ濠洲首相ニ勧誘ノ件

附屬書

七月三日付清水総領事ヨリヒューズ濠洲首相宛書翰写

濠洲ノ日英通商条約加入問題ニ関スル

濠洲内閣ノ見解問合ノ件

附記一

大正四年六月十八日大谷横浜商業會議所会頭提出「日濠貿易發展ニ関スル建議」

大正五年二月二十二日土居大阪商業會議所会頭提出「日濠通商条約締結ニ関スル意見開申書」

機密公第一六号 (八月十三日接受)

大正六年七月十七日

在シドニー

総領事 清水精三郎(印)

四 日英通商航海条約ニ濠洲加入ノ件 一九六

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

本件ニ就テハ客年十二月廿七日付機密公第二三号ヲ以テ及稟申候後濠洲政局ノ成行觀望致居候処本年二月十九日付公第二一号及五月十八日付第六九号拙信ヲ以テ及詳報置候通り労働党中「ヒューズ」氏ノ一派ト自由党トノ提携漸ク其歩ヲ進メ二月十七日連立内閣成立致シ更ニ五月五日衆議院議員ノ総選挙及上院議員一部改選ノ結果政府党ハ兩院トモ大多数ヲ制スルニ至リ其形勢ハ前記機密信中ニ記載セル本官ノ予測略ホの中スルコトト相成政府ノ基礎相定マリタルノ觀ヲ呈スルニ至リタルヲ以テ予テ待設ケタル勧誘運動ノ機會ヲ窺ヒ居候処首相「ヒューズ」氏ハ劇烈ナル政争ノ為メニ痛ク健康ヲ損シ暫ク転地静養シツツアリタルモ客月上旬ヨリ本月初旬ニ掛ケ当「シドニー」市ニ出張セラレタルニ依リ客月廿八日会见致シ先ツ総選挙ノ結果兩院共大多數ヲ制シ政府ノ基礎確立シタル成績ニ対シ祝意ヲ述べ戦争開始以來發展伸暢シタル日濠貿易ノ良好ナル關係ヲ持續改善